公開資料

社会技術研究開発事業
研究開発実施終了報告書

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム
（ソリューション創出フェーズ）
「性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、
被害者早期救援とＰＴＳＤケア迅速化の人材育成
および全国展開に向けた体制づくり」

研究開発期間　令和３年１０月～令和７年３月

研究代表者　長江　美代子
（日本福祉大学 福祉社会開発研究所
研究フェロー）

協働実施者　片岡　笑美子
（一般社団法人　日本フォレンジック
ヒューマンケアセンター　会長

目次

Ⅰ．本研究開発実施終了報告書サマリー 3

Ⅱ．本編 4

１．研究開発プロジェクトの目標 4
　１－１．研究開発プロジェクト全体の目標 4
　１－２．プロジェクトの位置づけ 4

２．研究開発の実施内容 5
　２－１．実施項目およびその全体像 5
　２－２．実施内容 10

３．研究開発成果 21
　３－１．目標の達成状況 21
　３－２．研究開発成果 22

４．研究開発の実施体制 26
　４－１．研究開発実施体制 26
　４－２．研究開発実施者 29
　４－３．研究開発の協力者 31

５．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 32
　５－１．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 32
　５－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 36
　５－３．論文発表 49
　５－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） 50
　５－５．新聞報道・投稿、受賞など 50
　５－６．特許出願 51

６．その他 51

Ⅰ．本研究開発実施終了報告書サマリー

A.なごみをハブとした愛知県内 OSC 連携センターモデルの初動を、小規模で開始できる。

愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業（2019～2024 年度へ継続）との協働により第 6～11 回目 SANE 養成研修を毎年 10 月～翌年１月の期間中（全８日間、65 時間）実施した。2024 年度第 11 回 SANE プログラム終了時点で、県内 24 連携センター（救命救急センター）中 23 連携センターで SANE139 名（なごみ 54 名、その他 85 名）が配置された。

性暴力対応件数は、2021 年から 2024 年で 8 連携センター585 件から 14 連携センターで 829 件（なごみ以外で 103 件）に増加、うち半数以上は SANE が対応している。いずれもなごみと連携して対応しており、5 名以上 SANE を配置した連携センターのうち 3 箇所が OSC 立ち上げを目指している。英国 ISVA トレーナーとの共同で開発した日本版 OSC ベースラインアセスメントの実施について 5 連携センターと覚書を交わして実施準備中である。

B. トラウマ・PTSD 拠点を開設し実働を開始する

トラウマ拠点での精神科チームを構成したが、解決すべき課題が提起されたため、将来のトラウマ拠点を目指して NFHCC でコンタクトセンター「くみき」とセラピールーム「たいむ」を令和 5 年 12 月に開設した。地域内外の関連機関とのネットワークはなごみ以後も継続しており、対象を性暴力・DV・虐待に絞って小規模で活動を開始した。SANE 及び支援機関からは「フォレンジック相談」で対応し、被害児の母親の会「こぎく」を開始した。入り口となる「くみき」は無料とし、「たいむ」での被害者のセラピーはクラウドファンディングでサポートしている。開発したトラウマ関連尺度入力システムの活用でセラピー前後の時間が短縮した。

対応件数：2023 年 12 月-2024 年 12 月現在、くみき 60 ケース、電話 55 回，面接（来所）42 回,メール 3 回、たいむ 10 ケース（TF―CBT２， PE３.PEA１.心理教育２,ドゥーラ１,カウンセリング 1)、フォレンジック相談 43 件。

C. 被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整える。

当初予定していた MDT 体制は個人情報保護の観点からデジタルでの情報共有が困難であったため、愛知県性犯罪・性暴力被害者支援機関連絡会議の場を活用して、各支援機関の取組について共有し、さらに多機関での情報共有の機会の拡大を図ることとした。OSC で被害者の情報把握のための基本的な共有項目を選択することはできたので、各 OSC 及び連携センターで共通項目データ蓄積を依頼することにし、それらのデータ統合は国か自治体の働きかけに委ねる方針とした。現在 5 病院が協力承諾、覚書きの文書を送り確認中である。

D. 性暴力被害の現状と、身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境の構築、全国レベルでの共通項目体系を構築し、データ化を進める。

NHK との大規模アンケートについて、多分野の研究者が加わり、順次分析をすすめている。被害による社会経済的損失計上の後は、自由記述データにおけるテキストマイニング分析を加え、被害の継続性、年齢別、男性、LGBTQ、被害者及び加害者に関する分析、など分析が深まっている。これらのエビデンスを、メディアを通じて社会に発信し、研修内容に反映させて社会実装の土台にしていく。

E. 啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供

F. 持続性のある NGM4S 救援システム構築に取り組み全国展開

＊E、F については、5 成果発表で報告する。

Ⅱ．本編

１．研究開発プロジェクトの目標

１－１．研究開発プロジェクト全体の目標

シナリオ創出フェーズでは、OSC を拠点に、性暴力被害直後から中長期の対応として NGM4S 救援システムを構築した。このシステムを基盤に、愛知県との協働で救命救急センターへの OSC 拡充に向けた事業展開を図り、人材育成と関係機関の連携を促進する体制を構築し、実証試験を行う。関係者の連携体制の足がかりとなる自治体主導の連携協議会を開始し、多機関多職種連携のための適切な情報の流れの明確化と情報共有を進める。これらの事業展開･人材育成･連携構築･情報共有の方法を､他地域での展開を可能にする NGM4S パッケージとして一般化し、全国展開を可能にする。

他地域への展開としてはNGM4S パッケージの救援システムを構成する①急性期対応モデル、②多機関・多職種連携チーム（MDT）体制モデル、③PTSD 治療技術、を地域毎にカスタマイズすることで他地域への導入を段階的に進める。情報共有システムとして、様々な組織体系のある各地域における情報の流れを明確化して連携構築を支援するシステムを構築し、多地域展開する。加えて、導入地区から得られた情報の流れを整理し、必要な情報の流れを元に簡素な共通コアシステムの構築も目指す。これらのプロセス全体を段階的に適用して他地域での展開を可能にする NGM4S パッケージとして一般化する。

１－２．プロジェクトの位置づけ

性暴力被害は心的外傷後ストレス障害（以下 PTSD）発症→生活困難→社会不適応→再被害、の悪循環が存在する。性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」（以下「なごみ」）での対応件数は 2016 年開設以後の約 8 年間で、電話延べ 13715 件、来所延べ 4066 件、診察延べ 1205 件、うち新規受付 2982 件、面談相談実数 1283 件であり、その 2/3 は愛知県および名古屋市の住民である。子どもの被害、特に思春期の被害は深刻で、利用者の約 3 割は 18 歳以下である。成人でも、被害後 1 年以上経過してからの来所者の 70%は 18 歳未満で被害に遭い、数年から数十年、PTSD 症状を抱え苦しんでいた。親族（実父、養父、兄弟など）からの被害は全体の 25%に及ぶ。SNS による被害も増加傾向である。18 歳未満では、自分で「なごみ」に連絡してくることは少なく、被害の発覚までに時間がかかっている。特にコロナ禍で DV・虐待・自殺は増加、児童・生徒・大学生の性暴力被害は前年度より 17%（26.3→43.2%）増加し、SNS や親族からの被害が目立っている。

性暴力被害者のほとんどが被害直後から急性ストレス症状に悩まされ、その後は半数以上が PTSD を発症する現状に対し、日本のほとんどの性暴力被害者ワンストップ支援センター（以下 OSC）が、PTSD に対応している精神科を探すのに苦慮している現状がある。本プロジェクトの調査では、愛知県内 109 件の精神科診療施設(個人を含む)のうち、27 件が PTSD 治療は行っておらず、ランダム比較試験でエビデンスが確立された治療法である、トラウマに焦点を当てた認知行動療法（TF-CBT）を基盤とした PTSD 専門療法(For et al.,

2013)について実施しているのは 7 件だった。PTSD 治療を行っていない理由の半数以上は、診療時間に余裕がなくコメディカルスタッフが不十分という内容だった。地域の OSC に対して、半数は協力できないと回答した。協力できない理由は、①現状の精神科診療体制において、性暴力被害者が示す病理、たとえば解離に関するもの、複雑性 PTSD および慢性化する経過でおこってきた依存などの合併症に対応する余地が、時間的にも人員的にも見いだせない、②トラウマをかかえた性暴力被害に対応する経験やトレーニングを受ける機会がないため対応できない、③OSC が認知されていない、であり、課題をあらためて認識した。個人の力が及ばない内容であり、時間をかけて国の施策に反映できる取り組みを続けていく必要があると考える。

シナリオ創出フェーズでは、病院拠点型ワンストップ支援センター（以下 OSC）を拠点に、被害直後から中長期の性暴力被害者救援システム「NGM4S （NAGOMI for Survivors）救援システム」を構築した。このシステムを基盤に、まず県内の救命救急センターへの OSC 拡充に向けた事業展開を図り、多機関多職種連携のための情報共有、データ構築を図っている。一刻も早く NGM4S 救援システムを全国的に展開し、被害者の PTSD 予防・治療・回復を確実にする仕組みの確立が課題である。

すべての性暴力被害者は救援され、予想される PTSD 発症に対して予防・治療・回復に沿った適正な医療が提供され、健康で社会生活が継続できる。OSC が、国連の推奨に基づき女性（人口）20 万人に一箇所設置され、研修を受けたスタッフが配置されている。社会には性暴力は犯罪であるという認識が浸透しており、すべての性暴力被害者はためらうことなく助けを求め、二次被害を受けることなく、トラウマ治療を含め包括的な支援を一箇所で受けることができる。被害者は、司法によって性犯罪被害者として扱われ、加害者は裁判所の判決に沿って適切に処罰を受ける。医療機関や性暴力対応機関窓口に限らず、教育機関・福祉施設・企業などの組織は性暴力の対応について、どうしたら良いか分からず戸惑っている。結果として、被害者は不利益を恐れて口を閉ざし、加害者は措置されることがないため暴力は組織内に蔓延している。性暴力被害者の多くは被害によるトラウマを抱えてその学校や職場を去っていることは、NHK の合同 WEB 調査の結果が示していた。本 PJ で得た知見を PJ 終了後の事業に活かし被害者にアウトリーチしていく。「助けてと言える社会、性暴力を許さない社会システム」により、将来的には性暴力は撲滅する。

２．研究開発の実施内容

２－１．実施項目およびその全体像

A. 6 カ所の愛知県内 OSC 連携センターとの連携ワンストップセンターモデルを実働させ、愛知県内の拡充と平行して段階的に全国展開するための準備が整う。

1. 愛知県内 24 カ所の救命救急センター所属の看護師を性暴力被害者支援看護職（SANE）として育成し、OSC 連携センターとして地域で急性期対応ができる体制を整備する。
   ① R5 までに 105 名（毎年 35 名×3 年）の OSC 連携センターSANE を養成する。
   ② R6 年 10 月末までに各 24 救命救急センターに複数の SANE を配置し、急性期対応可

能な連携センターとする

2. 愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業との協働により OSC 連携センターに急性期対応モデルを導入し活動開始する。
   ① R4 までに 3 名以上の SANE が配置された OSC 連携センターが 3 カ所なごみと連携して急性期対応を開始する。
   ② R6 までに愛知県内 OSC 連携センター6 カ所（救急救命センター5、連携精神科 1）に急性期対応モデルを導入
3. 日本救急医学会、日赤愛知災害管理センターとの協働により、救急や災害の現場にける性暴力被害対応の体制を導入する
   ① 学会への参加およびシンポジウムの開催
   ② 救命救急センター外来での性暴力被害初期対応の具体化
   ③ 日赤愛知災害管理センターとの協働により災害時の性暴力被害初期対応を具体化
   ④ 米国ネブラスカ大学メディカルセンター（UNMC）救急部門のチームと協働で日本全国へ社会認知を広げる
4. 救援から回復までの総合的支援活動継続のための環境と人材育成がシステムとして定着する
   ① なごみと NFHCC の協働により、複数の連携センターによって構成される地域単位の「NGM4S 救援システム」を実働開始し、評価修正する。
   ② 全国 OSC 設置に向けて「NGM4S 救援システム」を応用して愛知県外へ導入展開する。
   ③ NFHCC ホームページの SANE 専用クローズネットでノウハウや経験をインタラクティブに共有するシステムを提供する(看護師としての守秘義務の確認、個人情報に関するガイドラインの明示)。

B. トラウマ・PTSD 拠点を開設し実働を開始し、 NGM4S 支援システムに統合することで全国の PTSD ケア・治療拡充をめざす。

1. トラウマ拠点を開設し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSD の予防・治療・回復への介入および相談窓口とするとともに、治療ケアに従事するスタッフの育成を行う。
   ① トラウマ拠点設置準備委員会を構成し、設置場所、活動内容を決定する。
   ② R3 年 12 月までにトラウマ拠点を設置し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSD の予防・治療・回復への介入、相談、治療ケアに従事するスタッフの育成にあたる。
   ③ オンラインによる PTSD 治療（PE，心理教育）導入・実施・評価により被害者の治療へのアクセシビリティの向上を図る。オンライン実施の承諾書は作成済み。
   ④ 定期的な専門分野内および内外合同の事例検討会、熟練者によるスーパービジョンなど、オンラインを活用して定期的に実施し、治療およびケアの質の向上を図る。
2. 社会の理解を得るために、性暴力被害の影響および PTSD 症状の可視化を試みる。
   ① ウェアラブルデバイスによる PTSD 症状と治療効果の可視化の試行
   ② PE セラピストの育成において、スーパーバイザーとスーパーバイジーの判断の差異を可視化

C. 被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整え、MDT 構築推進プロセスをモデル化し、全国展開に向かう。

1. 常時対応可能な MDT の実施可能性について現場との合意形成のプロセスが具体的にすすみ虐待・DV・性暴力に対応する MDT のイメージが具体的になる。
   ① 常時対応可能な MDT を目指して小規模メンバーから開始し、徐々に参加メンバーを募っていくという合意形成のプロセスをモデル化し、NGM4S パッケージに組み入れる。
   ② 支援のプロセスをストーリー仕立てにした多機関多職種合同研修で連携を拡大する。
2. ISVA 導入オンライン研修による MDT の推進を全国展開し実現する。
   ① イギリス法務局で実施されている ISVA（イスバ）の研修は、12 日間の体系化された性暴力アドバイザー養成プログラムであり、職種に関係なく受講でき取得できることで共通の言語による理解で体制構築がスムーズになる。
   ② 基礎、個人の実践、アドバイザーと段階別の実施により、地域内 OSC と連携センターでは ISVA と SANE によるトレーニングを受けたスタッフの支援が拡大強化される。ISVA は、**一般レベル**（トラウマに配慮した対応ができる）、**支援者レベル**（自身が活動できる）、**アドバイザーレベル**（リーダとなり指導できる）、**トレーナーレベル**（アセスメント、サポートプラン、ISVA 養成プログラムを実施できる）の階層に分けられる。
   ③ 日本への ISVA 導入メンバーは全国組織であり、当事者、犯罪支援サポートセンター、病院拠点型 OSC、内閣府ワンストップ検討委員を含み、全国展開を前提に導入する。
   トレーニング実施は Alison Eaton 氏（独立系コンサルタント、元警察官警察の上級刑事として内務省と共に ISVA の役割を発展させた）。
   英国大使館 Michelle Leong 氏の協力を得て導入している。
3. 情報共有においてはガイドラインを作成しチームで共有する。
   1. 情報共有においては、個人情報保護法、名古屋市個人情報保護条例 、児童虐待防止法など関連の法令とそれに基づく大学、病院、児童相談所、警察との協定書の締結の必要性などをふまえてガイドラインを作成する。

D. 性暴力被害の現状と、身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境を、拠点内に構築する。また、拠点間、多機関・多職種間の連携を支援するための共通項目体系を構築し、データ化を進める。

1. トラウマケアおよび PTSD 治療効果を集積して可視化・応用する。
   ① 開発した効果測定尺度入力システムによりデータ集積する。
      - PE 治療
      - <u>心理教育を実施（SANE と CNS）し、被害後 1 ヶ月でトラウマ症状を評価、3 ヶ月で PTSD 発症の有無を症状尺度で評価</u>
   ② 性暴力による社会的・経済的損失を具体的に示すことで、社会の理解を促す。
   ・ 実際の被害者にアンケート調査を行うことで、それぞれの被害者がどのような経済的･社会的損失を被ったのかについて推計することで、性暴力がもたらす個人とその家族及び職場を含む社会に及ぼす直接的間接的な影響を可視化する。
      - 性暴力被害者へのアンケート調査（1000 件）とインタビューを行い、賃金センサスを用いて、損失所得を計算する。問題数は５０問＋回答者の属性１０問程度（性別、年齢、最終学歴、居住地、配偶者の有無、家族形態、現在の就業の有無、学生か学生以外か）。
      - NHK との協同による支援窓口につながっていない被害者対象のアンケート調

査を、項目を合わせて実施する。

- 家族メンバーの損失、職場の労働力の損失といった間接的損失についても含める。

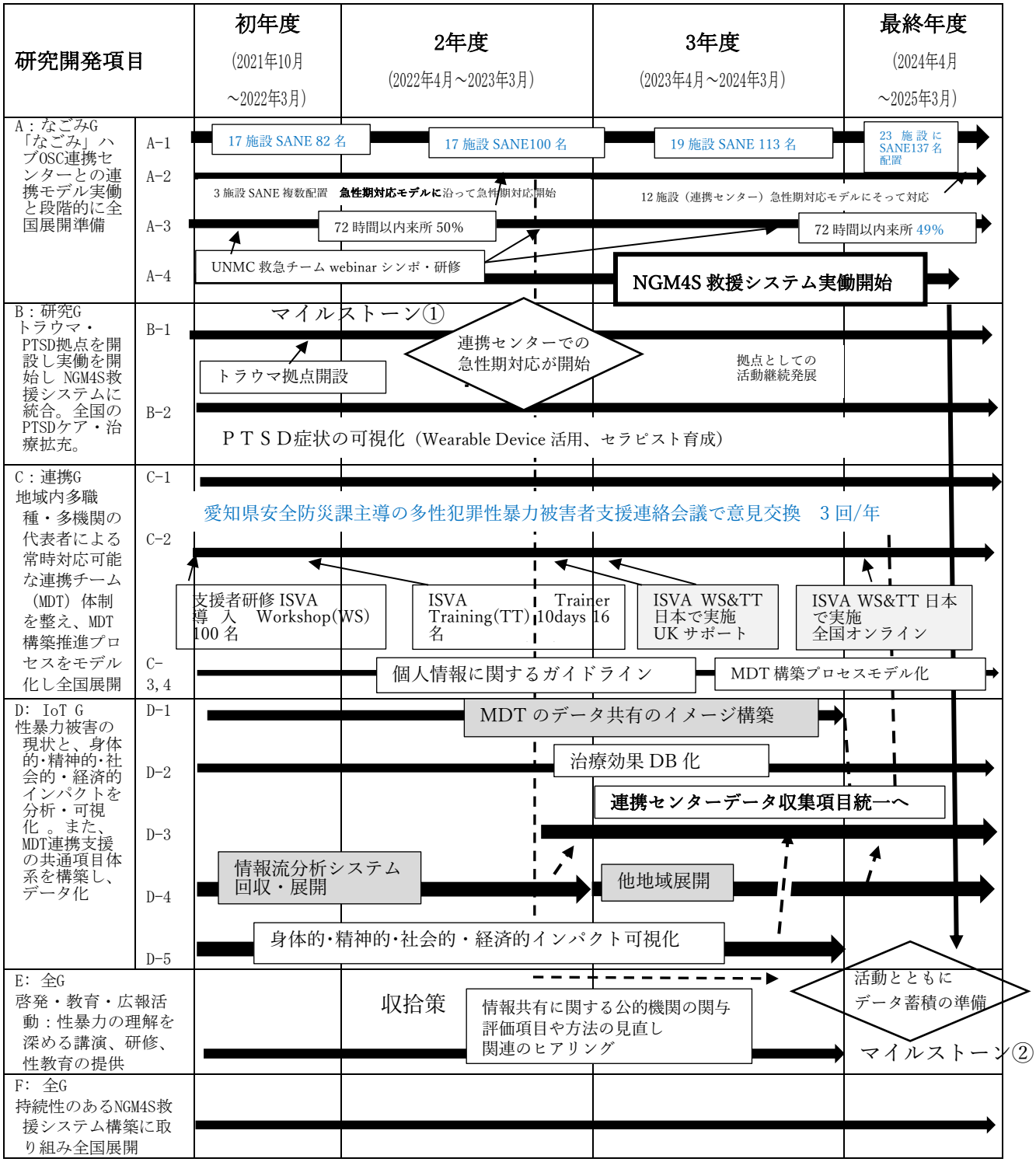
E. 啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供

講演、メディア活用、論文投稿、学会発表、研修、研修教材作成（絵本、DVD、オンライン）

F. 持続性のある NGM4S 救援システム構築に取り組みの全国展開

1. （一社）NFHCC,（一社）Spring の活動,全国の犯罪被害者サポートセンターとワンストップセ支援センターとの連携・協働により国や自治体の関与を促進（刑法、政策）
2. 人材育成として職種機関をこえた専門家の交流、学びの場の提供、資格の階層化
ISVA は受講要件がなく誰でも受講できるため、職種や機関をこえて受講を促し交流を図り相互の理解を深める。

研究期間中のスケジュール



＊　グレーのところは実施が困難だったところ

＊＊　青字は変更した内容を示す。

２－２．実施内容

１．実施項目

大項目①:「なごみ」をハブとして 5 カ所の愛知県内 OSC 連携センターとの連携ワンストップセンターモデルを実働させ、愛知県内の拡充と平行して段階的に全国展開するための準備が整う

中項目①②：

（１） 内容・方法・活動：

- R1 年から愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業との協働で、愛知県内 24 カ所の救命救急センター所属の看護師を SANE 育成開始。１箇所のセンターから複数(２～３名)看護師の受講を推進した。
- R5 年までに 19 救命救急センターから 113 名の OSC 連携センターSANE を養成した。
- R6 年 10 月末までに各 23 連携センターに複数の SANE が配置され急性期対応可能な連携センターとなった。

（２） 結果：

- OSC 連携センターとして地域で急性期対応ができる体制が整備され､12 連携センターがなごみと連携し被害対応が実働できている。
- R4 までに 3 名以上の SANE が配置された OSC 連携センターが 3 カ所なごみと連携して急性期対応を開始した。
- R6 までに愛知県内 OSC 連携センター5 カ所に急性期対応モデルを応用して導入を準備している。

（３） 特記事項：

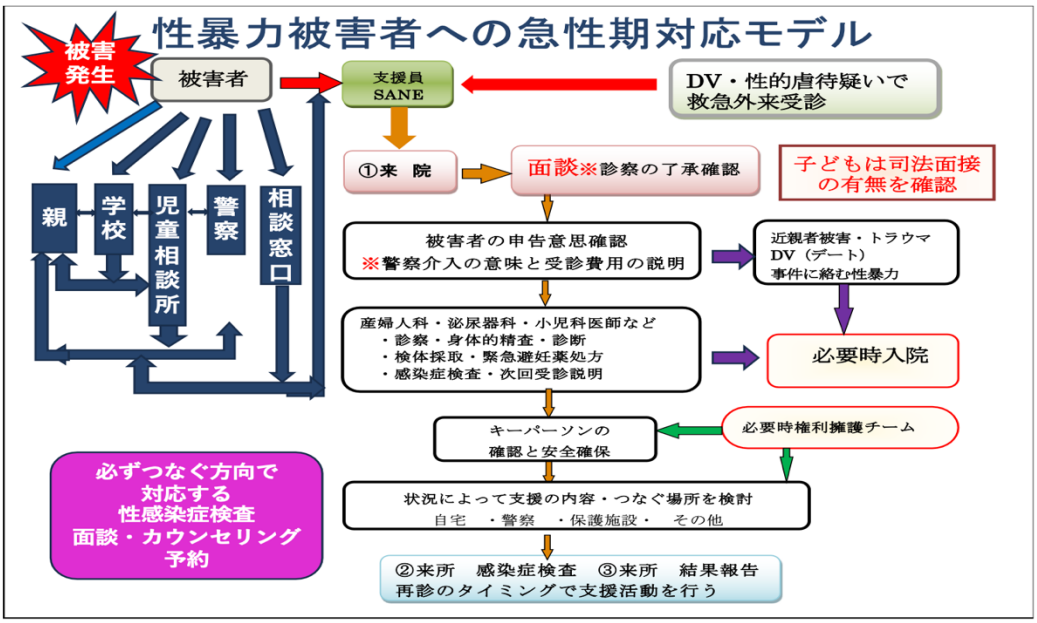
- NFHCC の活動拠点が「なごみ」の外部となったため、「なごみ」をハブとするイメージから、NFHCC がなごみ及び連携センターからのフォレンジック相談を受付け、なごみの資源を活用できるようにつなぐパターンになっている。
- ・R6 年 10 月末までに、性暴力被害後 72 時間以内に支援につながる利用者の割合は全体の 49%にとどまった。なごみで診察できた被害者数が減少していた。

愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業計画（2019年度～）

- 愛知県救命救急センターの看護師を、性暴力対応看護職（SANE）として育成し、地域で急性期対応ができる体制を整備する。
- なごみをハブとした地域連携ネットワークを構築する。連携センターとして活動する。

年度	愛知県救命救急センター精神科・小児科受講対象病院数	SANE養成プログラム受講病院数及び看護師数	対象病院外受講者数	SANE配置数	性暴力被害者来院件数（延べ数）	SANE対応件数	なごみとの連携体制整備
2019年度（対面）	23病院	18病院26名	6名				
2020年（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1	11病院18名 精神科医療施設3名	10名				
2021年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	11病院20名 精神科医療機関1名 小児科医療機関3名	10名	17施設82名 （なごみ以外22名）	8施設585件 （なごみ以外36件）	4施設477件 （なごみ以外19件）	5施設
2022年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	12病院18名 精神科医療機関3名 小児科医療機関2名	23名	17施設100名 （なごみ以外40名）	8施設654件 （なごみ以外73件）	4施設475件 （なごみ以外43件）	5施設
2023年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	17病院28名 精神科医療機関1名 小児科医療機関2名	23名	19施設113名 （なごみ以外59名）	14施設742件 （なごみ以外91件）	9施設484件 （なごみ以外40件）	7施設
2024年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	16病院29名 精神科医療機関1名 小児科医療機関1名	40名	23施設139名 （なごみ以外85名）	14施設829件 （なごみ以外103件）	10施設476件 （なごみ以外63件）	12施設

（非開示の医療機関はデータに含まれません）



中項目③

（１）　内容・方法・活動：日本救急医学会、日赤愛知災害管理センターとの協働により、救急や災害の現場における性暴力被害対応の体制を導入する

・学会への参加およびシンポジウムを開催した。

・救命救急センター外来での性暴力被害初期対応の具体化について。

・米国ネブラスカ大学メディカルセンター（UNMC）救急部門のチームと協働で日本全国へ社会認知を広げた。

2023 年 8 月 7 日～10 日、ネブラスカチームが来日し、日本における虐待・性暴力の現状について、なごみ、加茂登志子氏、山田不二子氏にインタビューしドキュメンタリーを作成した。

（２）結果：

- ネブラスカ大学医学部メディカルセンターチーム

  ポスターが採択されたら来日参加予定

  WADEM 2025（第 23 回世界災害救急医学会）

  2025 年 5 月 2 日（金）～5 月 6 日（火），京王プラザホテル

  https://wadem.org/congress/tokyo-2025/

  独立行政法人国立病院機構災害医療センター

  https://saigai.hosp.go.jp/

  一般社団法人日本災害医学会　共催

  https://jadm.or.jp/

- 第３０回日本災害医学会（30　JADM）

  2025 年 3 月 6 日-8 日　名古屋国際会議場

  https://www.congre.co.jp/30jadm/

- 静岡大学ジェンダー研究所主催の「災害時の性暴力シンポジウム」にシンポジストとして招致。
  - 「災害・パンデミックにおける性暴力被害と対応：性暴力対応看護師（SANE）の立場から（長江美代子）2024 年 11 月 23 日（土）

（３）特記事項：

- NFHCC の活動拠点が「なごみ」の外部となったため、日赤愛知災害管理センターとの協働は実現できなかった。
- ドキュメンタリーについては編集と翻訳作業の遅れで成果物はまだ届いていない。

中項目④：

（１）内容・方法・活動：

- 「なごみ」と連携センター、NFHCC のフォレンジック相談によって、連携センターでの性暴力被害対応が始まった。この１年間で 60 件ほどのフォレンジック対応を実施した。
- OSC 導入に関しては、神奈川、函館などからのフォレンジック相談に対応した。
- 被害児対応については田上 PJ のミーティングに片岡が常時参加し CAC（Child Advocacy Center）導入準備を協働している。長江 PJ は神奈川子ども病院と「つなっぐ」の見学を経て、SANE の活用について具体的に情報共有した。

（２）結果：

- 田上 PJ の CAC 候補病院から SANE 研修受講（約 10 名）、フォレンジック支援者研修の受講（21 名）があった。

（３）特記事項：なし

大項目②：トラウマ・PTSD 拠点を開設し実働を開始し、 NGM4S 支援システムに統合することで全国の PTSD ケア・治療拡充をめざす。

中項目①：

（１） 内容・方法・活動：

- R５年 12 月トラウマ拠点としてコンタクトセンター「くみき」を開設し、OSC 及び連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSD の予防・治療・回復のための無料相談と繋ぎの場とした。
  - 「くみき」は名古屋市「こころの絆創膏」性暴力・DV・虐待相談窓口として掲載されている（2014 年から継続しているが、名称はよろず相談の「街角メンタルヘルス」から 2023 年に変更）
  - R６年 12 月「くみき」利用者の満足度調査　開始。
- R５年 12 月トラウマ拠点として被害者のトラウマ・PTSD の治療・回復の場として。セラピールーム「たいむ」（有料）を開設した。
  - クラウドファンディング 300 万円達成し、犯罪被害者にたいして無料で PTSD 専門治療（心理社会療法）を提供している。
  - （一社）日本助成財団が主催するフェムシップドクターPJ のフェムシップドクターの認定を受け、困窮女性に対する無料健診ギフト（5000 円/回、PTSD 専門セラピーに関しては 10 回まで利用可能）を活用して、費用負担軽減を図っている。
- R６年９月マザーの会「こぎく」（被害時の母のグループセラピー）開設し参加者募集開始した。
- 性暴力・DV・虐待に関わる可能性のある支援機関、学校、保育園その他からの「フォレンジック相談」対応を開始した。
- R6 年６月サバイバーの妊娠・出産・子育てをサポートするドゥーラ（周産期によりそう非専門職）を「たいむ」のメニューに加えた。
  （一社）ドゥーラシップジャパンと共同で「R5・R6 年度ドコモ市民活動団体助成事業」に採択されたため、ドゥーラ対象に「性暴力のリプロダクティブヘルス」関連の３日間研修を実施（R5 年８月）し、ドゥーラケアと同行支援を開始した。
- 治療ケアに従事するスタッフの育成を行なった。

（２）結果：

- 2023 年 12 月-2024 年 12 月現在：

  「くみき」63 ケース、電話 57 回，面接（来所）44 回，メール３回

  「たいむ」12 ケース（TF―CBT3，PE３，PEA1，．心理教育２，ドゥーラ１，カウンセリング 1）

  「フォレンジック相談」43 件

  「こぎく」募集中候補４名　１月初回実施予定
- 「くみき」利用者の満足度調査　開始　インタビューを受けても良いと回答された方もいる。
- NFHCC スタッフで CARE、 TF-CBT、 フェムシップドクター養成講座を受講した。

（３）特記事項：

- トラウマ拠点は、当初日本福祉大学付属クリニック「さくら」が候補先であったが、大学のクリニック経営方針が変更となったため、NFHCC が場所を確保して開設に至った経緯があり、開設時期がおくれた。

中項目②：ウェアラブルデバイスによる PTSD 症状と治療効果の可視化の試行については大項目④-2 で記述しました

大項目③：被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整え、MDT 構築推進プロセスをモデル化し、全国展開に向かう。

中項目①：常時対応可能な MDT の実施可能性について現場との合意形成のプロセスが具体的にすすみ虐待･DV･性暴力に対応する MDT のイメージが具体的になる。

（１） 内容・方法・活動：

- 1 カ所の児童相談所となごみの MDT ワーキングに警察関連のメンバーが加わり、愛知県警との小規模で対話を開始し、成功例や検討を要する例について個別のケースで具体的に話し合い、連携フレームワークを複数具体化した。
- 個別のケースについて取り組む機会として、支援のプロセスを機関多職種合同研修で連携を拡大。
  - 8歳を超えた性的虐待ケースについてオンライセミナー開催
    2022 年 5 月 31 日　講師 飛田桂弁護士　参加者：57 名+スタッフ 3 名
- GM4S 救援システムを児童思春期の性被害急性期対応に応用し、日本に適した MDT を推進するため<u>田上 PJ と連携し</u>た。
  - 視察したスコットランドのエジンバラでのヨーロッパ型 CAC の取り組み（Barnahus Model）について、UK の子どもワンストップにある Multi Agency Safeguarding Hubs （MASH や米国型 MDT と比較し、日本への導入について検討した。
- CAC（子どもワンストップの MDT）に必須の司法面接実施に関連し、系統的全身診察ができる医師の育成を呼びかけた。
  - 2022.5.14（土）認定特定非営利活動法人チャイルドファーストジャパン（CFJ)による「出前型　被虐待児診察技術研修」
    小児科、産婦人科、救命救急センター、精神科など、被虐待児の診察をする可能性がある医療機関で診療されている医師を対象とした。県内 30 名の医師が参加した。
  - 司法面接・系統的全身診察・PTSD 対応が一連のシステムとして提供できる MDT を備えた CAC(Child Advocacy Center)モデルを提案
    2024 年 5 月 24 日名古屋シンポジウム開催:米国オレゴン州 Children's Center の小児科医で虐待専門医 Dr. Susan T. Skinner, MD, FAAP を招致
- 多機関が同一の建物あるいは敷地内にいる”Co-location”の MDT の可能性について各自治体とりくみを紹介し、呼びかけた。
  - 2024 年 11 月 27 日　「多機関多職種連携シンポジウム」開催

（２） 結果：

- 連携フレームワークを複数具体化
  - きょうだい間の加害と被害

- 母親がコンタクト窓口で、被害児に支援が届いていない。
- 同級生からの被害
- 被害児の自殺企図が懸念される。
- 証拠採取から被害届につながっていないケース

• 愛知県の「組織間連携スキーム」をモデルの土台として活動を開始し、最終的に、愛知県内の行政、OSC、NFHCC、サポートセンターの関係性が明確になった。
• PJとして子どもワンストップ部門に取り組んでいたので、田上PJとともにCAC推進をすすめることとなった。

（３） 特記事項：

• Ｒ５なごみと NFHCC の情報共有について、覚書等の文書化がなされていなかったことで、MDT 構築推進プロセス前提であるなごみと NFHCC の情報共有について再検討が必要になった。NFHCC の活動の拠点も同時期になごみ内部から外部へと移行した。R5 年 6 月になごみと NFHCC の話し合いをマネジメントチームの協力を得て継続し、その結果、弁護士に依頼をし、Ｒ５年 12 月に覚書を交わした。MDT 構築については、自治体の取り組みを全国に紹介し、理解を得て推進する方向となった。

中項目②：ISVA（Independent Sexual Violence Adviser）導入オンライン研修による MDT の推進を全国展開し実現する。

（１） 内容・方法・活動：

• R4 年 9 月、全国組織で構成した ISVA―Japan により、全国展開を前提に OSC 支援者研修として導入し、MDT を推進（当事者団体、犯罪支援サポートセンター、病院拠点型 OSC、内閣府ワンストップ検討委員、英国大使館など）した。その後のミーティングで、日本用 SARC ベースラインアセスメントが届き、全国の OSC での実施を検討した。
トレーニング実施は Alison Eaton 氏（独立系コンサルタント、元警察官警察の上級刑事として内務省と共に ISVA の役割を発展させた）　　。
英国大使館 Michelle Leong 氏の協力を得て導入した。
Ｒ５年、UK 訪問し性暴力被害の取り組みにおける、SARC（OSC）、MASH、ISVA の活動を視察し、英国 OSC である SARC のベースラインアセスメントについて、R4 年 11 月の ISVA 講師来日時の日本の現状に合わせた内容に応用することを相談した。

（２） 結果：

• R4 年 11 月の ISVA 講師来日時に、１０日間研修の最終インタビューが実施され、15 名が ISVA の認定を受けた。主要な「被害者の法的プロセスに伴走支援する」役割を導入する前提として、OSC の標準化を進める必要性を理解し、ISVA-JAPAN ですすめている。
• ISVA 講師による日本版ベースラインアセストを翻訳し実施用に準備中である。愛知県内 5 連携センターから試行的に実施承諾があり、ISVA-JAPAN で分析して実際に使えるものにし、全国の OSC で実施を目指す。

（３）特記事項：

イギリス法務局で実施されている ISVA（イスバ）の研修は、12 日間の体系化

された性暴力アドバイザー養成プログラムであり、職種に関係なく受講でき取得できることで共通の言語による理解で体制構築がスムーズになることで、MDT 構築にも役立つと考え計画に組み込んだ。将来的には SANE を含む MDT メンバーと共同する存在となる。

中項目③：情報共有においてはガイドラインを作成しチームで共有する。

（１） 内容・方法・活動：

- 将来的の MDT および支援コーディネートを性犯罪・性暴力被害者支援連絡会議を活用して、しくみづくり、体制づくりをする。
- SANE 受講生や被害者対応を実践している連携センターSANE から情報え得た。

（２） 結果：

- R5 年第 2 回性犯罪・性暴力被害者支援連絡会議での以下の情報から、連絡会議などで連携センターの情報共有の機会を作ることになった。
  - 県内連携センターや県外病院では SANE による急性期対応がはじまり、医療からその後の支援（中長期も含めて）につなぐプロセスがわからない→シンプルなガイドラインの作成、NFHCC フォレンジック相談で対応
  - 県内連携センターや県外病院には複数の SANE が配置されたが、周知されていないため対応件数が少ない→周知の方法、公的機関へのアプローチ
  - 対応窓口が SANE に一本化されているところは比較的スムーズである。

（３）特記事項：

- <u>R4 の変更点と背景</u>

個人情報保護法、名古屋市個人情報保護条例 、児童虐待防止法など関連の法令とそれに基づく大学、病院、児童相談所、警察との協定書の締結の必要性などをふまえてガイドラインを作成、という計画だったが、紙ベース、電話、FAX のみでの情報共有を前提としているため、プロセスがすすまなかった。ISVA や米国視察での MDT における情報共有など、日本の体制ではまだ実現は難しい。愛知県においては、被害者支援法に基づく早期援助団体は、愛知県犯罪被害者サポートセンターのみであることもプロセスがすすまない背景の一つである。令和 4 年 4 月 1 日施行された愛知県犯罪被害者等支援条例では、新たに民間支援団体への犯罪被害者支援に係る個人情報の適切な管理について定められた。協定書の締結の選択肢に加えて、情報共有の範囲について話し合うことができると考えた。警察との定期ミーティングや事例検討などの活動を共有して、課題の共有から開始することにした。

大項目④：性暴力被害の現状と、身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境を、拠点内に構築する。また、拠点間、多機関・多職種間の連携を支援するための共通項目体系を構築し、デー

タ化を進める。

中項目①：

（１） 内容・方法・活動：

- MDT が迅速なアセスメントと決断により適正に対応するために組織間での性暴力・虐待に関する情報連携に必要な項目を明確にする
  - なごみ開設時からの SANE 記録用入力フォームを整理し抽出し作成したデータ収集項目について、クラウド型（kintone）入力システムを準備し「くみき」で試行中である。
  - OSC 候補連携センターに協力承諾を得て、トライアルの方法と入力システムについて相談した。
  - その他 SANE を 6 名以上配置し、性暴力対応を始めた OSC 連携センターにも協力を依頼しトライアルを実施。

（２） 結果：

- 全国的データの重要性はいずれの病院の管理者に理解を得た。将来的に、自治体や国からの要請があれば、病院は提供可能。エクセル（CSV）でのアウトプットのイメージが主流。
- 愛知県に関しては、これまでも協働しているので、愛知県に協力を得る
- 対応した性暴力被害者のデータ項目を扱う前述のアプリ又は kintone による各機関による個別運用は技術的には可能になっているが、機関間でのデータ連携は、各機関での自主運用の壁は高い。→個人情報扱い上、現時点では検討に留まった。
- 多機関連携はトップダウンの政策がないと動かないので、今後の政府・自治体への働きかけが、他の課題（資金面など）と同様に重要であることが明らかになった。

（３）特記事項：

各連携センターの被害者データ入力方法にあわせて導入でき、必要時共通項目データを収集できるシステムおよび、アプリやデータの運営管理（場所、保守、費用など）についてコンサルを依頼し検討する予定だったが、いくつか連携センターを訪問し、話し合ったところ、いずれの病院もデータを外に出すことは、困難である現状が明確になった。データ共有については、戦略会議やサイトビジットで相談を重ねたが、最終的には以下のように方針を変更した。

→各連携センターの被害者データについては、必要時共通項目データを収集項目に含めていただき、病院が採用する入力システムで運営管理をしていただく、しかし、将来の全国データ収集の機会には、共通のフォーマットでとりだけるシステムとしていただく。

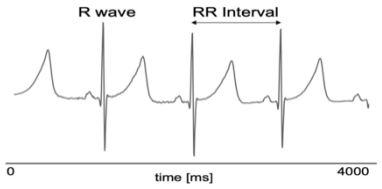
- 本プロジェクトでは、この長年にわたる見えにくい性暴力の問題を把握する上で必要なデータ項目を整理し、地域間での共有を促す、というところまで手掛けた。　→国レベルでの対策が必要

中項目②：

（１） 内容・方法・活動：

- ウェアラブルデバイス（心拍変動 HRV を測定）で PTSD 専門治療の効果を可視化した。

心拍変動（HRV）は、ストレス指標の一つであり、R-R 間隔の変動より計算される。」RR 間隔とは、心電図で示される R 波の間隔のことで、心室興奮から次の心室興奮までの時間を示す。



HRV は自律神経系の影響を受けており、高周波成分(HF)には副交感神経系の影響が、低周波成分(LF)には交感神経系の影響が反映されるため、LF と HF の比により交感神経系と副交感神経系の優位状態が分かるため、ストレス状態推定の指標として使うことができる。精神的健康と身体的健康の関係について、心拍変動の研究からの洞察が報告されている(Kemp et al., 2013)。

数値が高いと交感神経優位を、低い場合は副交感神経優位を示す。しかし、規則正しい深呼吸をしているときの呼吸性洞性不整脈(RSA: Respiratory Sinus Arrhythmia）による副交感神経活動の増大を反映していることを考慮する必要があるため、LF/HF 比率は補正された値で計算される。

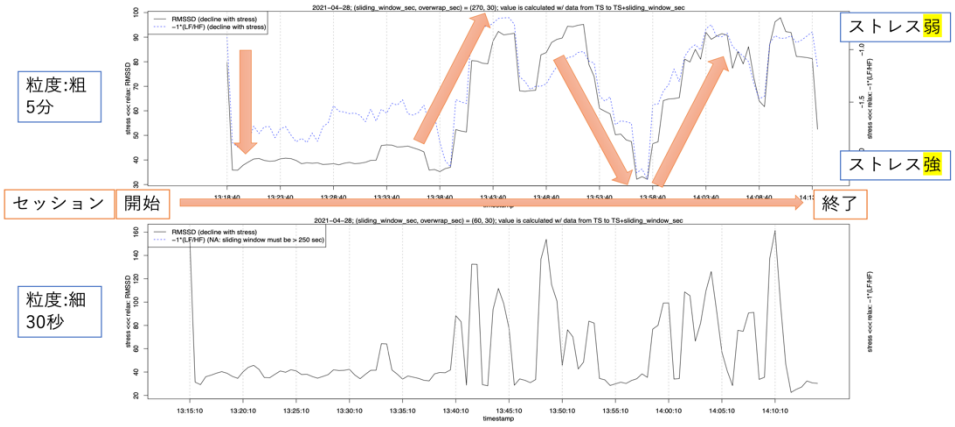
HRV 取得機材について

CorSense(指に装着タイプ)、MyBeat（胸部に電極パッドで装着するタイプ）の２種類を準備し、クライエントに違和感がない方を使用する。

- トラウマケアおよび PTSD 治療効果を、開発した効果測定尺度入力システムによりデータ集集積して可視化・応用した。
  -PE その他 PTSD 専門治療の継続的な評価
  -心理教育を実施（SANE と CNS）し、被害後 1 ヶ月でトラウマ症状を評価、被害後から 3 週間ごろから 3 ヶ月の周辺で、被害者の状況に合わせて PTSD 発症の有無を症状尺度で評価する。
- くみき来所時の対応について開発した来所者満足度調査アプリよりデータ集積する。

（２）結果：

- 以下は、PTSD 治療のセッションの際に測定された HRV データの解析例である。セラピーで意図的に負荷をかけたところで HRV 値が低下している。



＊5 分粒度以上の移動窓で計算できる医学的裏付けの強い LF/HF、並びに、30 秒の短移動窓で計算された瞬間的変化を捉えるためのショートターム心拍変動値が、セッションの開始から終了まで可視化されている。

12 月現在で 4 名の PE 実施者からデータ取得した。
「PTSD チームアプローチ」倫理審査委員会　変更申請承認済み。

- 尺度入力システムに活用で、セラピー前後の時間が 30 分短縮できた。データのグラフ化のプロセスをすすめていて、さらに時間短縮が期待できる。
- 「くみき」利用者の満足度調査　開始　インタビューを受けても良いと回答された方もいる。

（３）特記事項：なし

中項目⑤：

（１） 内容・方法・活動：

- 性暴力被害の現状および被害が与える身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを可視化する。
  - NHK との大規模アンケートについて、順次分析をすすめている。
    害による社会経済的損失計上の後は、自由記述データにおけるテキストマイニング分析を加え、被害の継続性、年齢別、男性、LGBTQ、被害者及び加被害者に関する分析、など分析を深めた。これらのエビデンスを、メディアを通じて社会に発信した。
    研修内容に反映させて社会実装の土台にしていく。

（２）結果：

- 多分野の研究者が加わり、PJ 終了後の分析チームの土台になった。
- NHK 調査
- データの分析結果を社会実装に役立てる機会が増えている：
  - 性暴力についての研修について､産業労働研究所から研修本の提案があり、職場のハラスメントを扱った「ある職場」の 30 分バージョンを活用した研修を作成し、3 月に試行予定である。(株) トライアングル・トラストが加わり、具体的な計画ができてた。

（３）特記事項：なし

大項目⑤：啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供

（１）内容・方法・活動：

講演、メディア活用、論文投稿、学会発表、研修、研修教材作成（絵本、DVD、オンライン）

（２） 結果：

- 愛知県との協働
- “When Survivors Give Birth” 訳本の出版
- 性暴力被害者支援の現場で使える性教育の絵本を作成した。

  「はなれるいのち」監修：長江美代子・江口美智、作・絵：あすみさ

  「宿るいのち・逝くいのち」監修：江口美智・長江美代子　作・絵：あすみさ

  出版社：株式会社ともあ　2022 年 1 月 15 日出版
- ホームページの検討
- ネブラスカ大学チーム、日本の取り組みをドキュメンタリーに来日（虐待死ケースについて、関係者2名が対応予定)、NFHCCも協力予定
- ISVA導入の継続
- 一般社団法人看護系学会等社会保険連合へ診療報酬についての要望書を提出した。「SANE-Jによる性暴力被害にあった子どものリプロダクトヘルス指導管理料」については、医療技術評価提案書の一次評価を通過したが、最終的には不採択であった（19項目のうち2項目が採択)。働きかけ継続。
- NHKとの大規模アンケートデータを分析し、メディアの取材、書籍や雑誌への掲載、講演などで発信した。
- 日本女性財団が主催するR５、R６あいちプラットフォームの事務局及びシンポジストとして協力した（令和6年3月、令和7年3月)。
- 職場のセクシュアルハラスメントを扱った映画「ある職場」(舩橋淳監督)を用いた視聴とトークイベントを企画（会社などの組織単位)、セミナーを名古屋と東京で企画（R7.3.27＆28)
- 約 80 件の講演・研修活動（愛知県内全公立高校の養護教諭対象研修含む)
- 新聞報道 10 件、テレビ報道 8 件
- 論文 6 件（うち 2 件英語論文)

（３） 特記事項：

- “When Survivors Give Birth” 訳本の出版について、毎日新聞で広報した。11月からは、各章ごとに翻訳担当者が精読会でファシリテーターを実施し、理解を深めた。
- 日本フォレンジック看護学会とともに、看保連に医療加算申請を具体的に進めている。
- 出版記念フォーラム参加者48名。絵本は、なごみ連携推進機関、教育委員

会、児童相談センターその他に80冊謹呈した。

- 職場のセクシュアルハラスメントセミナーは、予想を超えて集客が困難であった。多方面からの分析が必要である。

大項目⑥：持続性のある NGM4S 救援システム構築に取り組み全国展開につなぐ

中項目①：一社）NFHCC,（一社）Spring の活動,全国の犯罪被害者サポートセンターとワンストップセ支援センターとの連携・協働により国や自治体の関与を促進（刑法、政策）

（１） 内容・方法・活動：

（一社）NFHCC、（一社）Spring の活動,全国の犯罪被害者サポートセンターとワンストップセ支援センターとの連携・協働により国や自治体の関与を促進（刑法、政策）

人材育成として職種機関をこえた専門家の交流、学びの場の提供、資格の階層化

（２） 結果：

- 群馬県、神奈川県、函館など SANE が配置されて動きがあるので、愛知県内と同時並行で OSC の導入と拡充へのアプローチを実施した。
- 愛知県内で CAC 立ち上げが進んでいるため、子どもワンストップの側面での展開も視野に入れ、田上プロジェクト、石川プロジェクトと連携した。
- あいちモデルとして県内の取り組みを発展させるにとどまったが、全国に展開する準備はできた。
- ワンストップに欠かせない SANE の受講者は全国から受講、今年度は全国 28 都道府県より 71 名が参加

（３）特記事項

- 活動は県内にとどまった。病院拠点型ワンストップセンターは、他地域では後退している。
- 病院は診療報酬で経営維持されるため、反映されない事業は行わない 。診療報酬に関しては、SANE による活動や体制を整備していることによる加算に令和 4 年度から取り組み、現在も継続して申請をしている。

３．研究開発成果

３－１．目標の達成状況

OSC については、愛知県と日本福祉大学との協働により、あいちモデルの要となる SANE 育成を全国的にできるようになり、想定したハブモデルより、多くの OSC を目指す連携センターが出てきたことで目的は達成できた。

- OSC 連携センターとして地域で急性期対応ができる体制が整備され、12 連携センターがなごみと連携し被害対応が実働できている。
- R4 までに 3 名以上の SANE が配置された OSC 連携センターが 3 カ所なごみと連携して急性期対応を開始した。

- R6 までに愛知県内 OSC 連携センター5 カ所に急性期対応モデルを応用して導入を準備している。

イメージするトラウマ拠点までもっていくことはできなかったが、「くみき」「タイム」「小菊」「フォレンジック相談」と、拠点としての機能はある程度準備できた。資金面の安定は確立できていないが、寄付・助成金・クラウドファンディングなどで補足しつつ、自立できるサービスの対価を得られるようにする必要がある。

目標として掲げた MDT については残念ながら達成できなかったが、経過を通して日本の現状を知る機会となった。時間はかかるが、目標を日本にあったモデルの実現として継続したい。

なごみでの活動の貴重なデータを分析する機会を失ったことは PJ の大きな損失ではあるが、NHK との協働で得た被害者のデータは貴重なものであり、社会に還元していくことで被害を受けた方たちの思いに応えたいと考える。実際、貴重な発見がすでにえられており、目標は達成できたと考える。

性暴力の理解を深める講演、研修、性教育などを提供してきた。少しずつではあるが変化がある。具体的な実践（初動対応など）についての問い合わせや研修依頼が増えているため、今後の事業化の土台になっている。

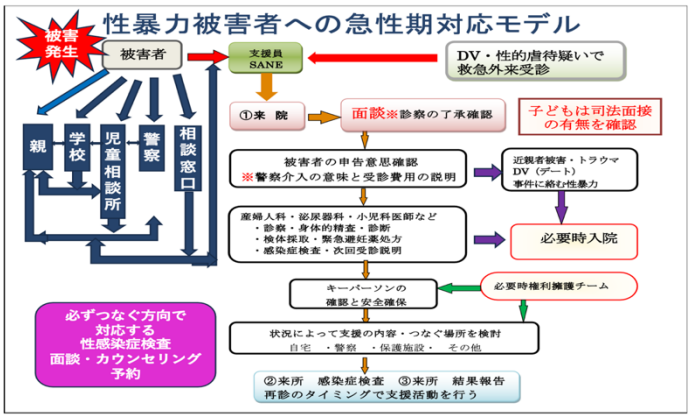
持続性のある NGM4S 救援システム構築に取り組み全国展開については、なごみと NFHCC の関係調整が必要だったこともあって、あいちモデルが形とれたのは最終年度にはいってからであった。SANE の活用など、思ったほど後方ができていなかった反省もある。11 月にシンポジウムで自治体の取り組みを発信できたのが効果的だったのは、シンポジウムの事後アンケート評価からも実感できた。

３－２．研究開発成果

成果：OSC＆連携センターにおける性暴力被害者への急性期対応モデル

(1)内容：病院拠点における性暴力被害者の急性期対応モデルとして、その初動を示したもので、「なごみ」での SANE 活動を土台に実践の過程で作成されたため実践的である。

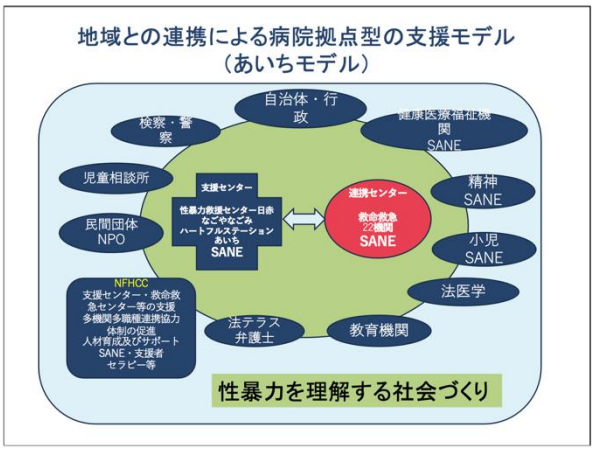
(2)活用・展開： OSC や連携センターの活動マニュアル（なごみ対応マニュアル）に、以下のフローチャートとともにしめす。24 時間ホットライン体制、面談相談、司法面接の可能性、緊急医療支援、心理的支援、法的支援、生活支援、同行支援などについての具体的な説明がマニュアルで示されている。SANE 研修に必ず含まれる。

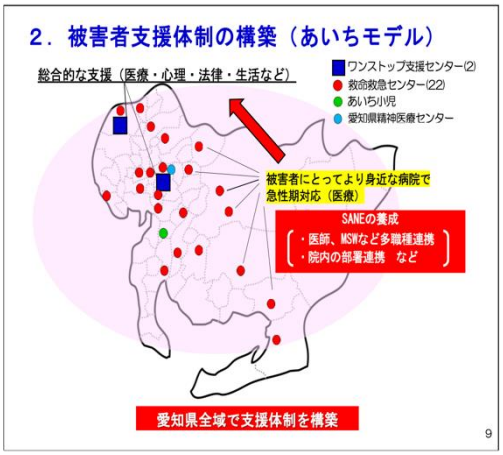


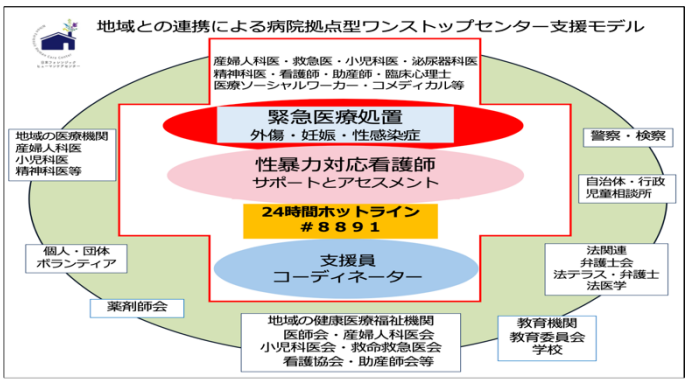
(3)その他：支援機関の窓口だけでなく、職場、学校、保育園などで性暴力被害を見つけたら、あるいは性暴力被害にあっていると相談された時など、どのように対応したらよいかという相談や施設単位での研修をしてほしいといった依頼が多くなっている。本モデルは病院拠点の場合の対応マニュアルとして、入り口から次のシーンに繋ぐまでのプロセスについてのガイドになることと同様に、組織単位で暴力対応部署があり対応マニュアルがあると、継続性のある暴力撲滅へも道となる。サイトビジットや戦略会議でも「処方」という表現で助言をいただき、プロジェクト後の事業に組み入れることになった。

成果：愛知県内 OSC 連携センター「あいちモデル」の実装

(1)内容：モデル全体の体制は「地域との連携による病院拠点型の支援モデル（あいちモデル）」であり、愛知県全体の体制が「愛知県全体の被害者支援体制の構築（愛知モデル）」である。



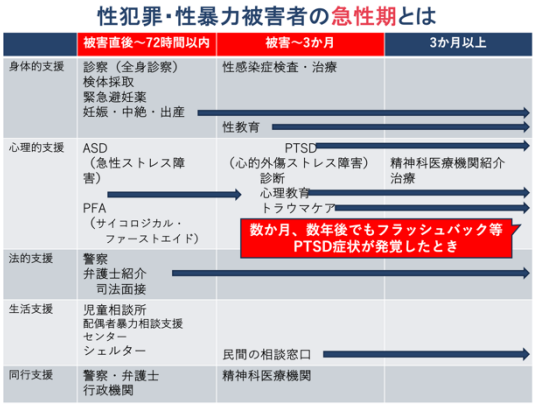




なごみは「SANE を活用した病院拠点型の OSC」の体制として、病院内の体制とその周辺の地域のステークホルダーで構成されている。

(2)活用・展開：あいちモデルでは、急性期対応を担う連携センターは、OSC と連携することで周辺の資源（地域のステークホルダーのサポートを含めて）を活用できる。類似の資源を各連携センターの地域で準備ができると、OSC として活動を開始することができる。OSC としての支援内容と時期、スタッフの配置、シフト、担当内容と役割を参考にして、各病院にあった体制を整える。

医療関係外のステークホルダーは、OSC 開設以前から実施していた PTSD を抱えた暴力被害にアウトリーチするためのよろず相談活動（街角メンタルヘルス）で個別に協力をお願いしているうちに出来上がったネットワークである。お互いに協力しあってきたことと、被害者に対する共通の理解があった。



支援内容と担当者の役割

支援内容	アドボケーター（支援員）	SANE（看護師）	医師	MSW	精神看護専門看護師 公認心理士等
２４時間ホットライン	○ ８：３０～２０：３０	○ ２０：３０～８：３０		○ 適時	
面談相談	○ 必要時	○	○ 適時	○	○
緊急医療処置		○	○		
心理的支援		○	○ 必要時	○	○
法的支援		○		○	
生活支援		○		○	
同行支援	○			○	
ケースカンファレンス	○	○	○ 必要時	○	○

(3)その他：OSC は 24 時間体制が必須であり、それを円滑にするために SANE の活用を考えた。もともと病院では看護師は 24 時間のシフトで配置されているため、看護師が SANE であれば性暴力被害者の初期対応を一定の水準にできる。実際に「なごみ」開設からその運営の円滑さは予想以上だった。それを支えたのは愛知県と日本福祉大学との協働であり、SANE 養成が継続的に可能な状況を示した。これもプロジェクト後の事業に組み入れる。

米国の OSC モデルを参考にしていたので、MDT もこのモデルに不可欠の要素であるが、ネットワークを組む多機関多職種が同じ建物に同居する Co-location を日本で実現するのは愛知県では困難だった。情報共有の問題を解決し、経済的にも節約になるが、理解を得る方法が見つからなかった。シンポジウムで福岡や岐阜の取り組みを一緒に示すことができたので、実現が早まることを期待したい。

成果　NHK との共同アンケート実施とデータ分析

(1)内容：NHK 性暴力を考える取材班のディレクターは、2 ヶ月間「なごみ」に毎日通い支援活動の妨げにならないよう配慮して、機会を捉えて取材撮影し、クローズアップ現代やおはよう日本その他で特集を組んだ。その後の WEB アンケートでは、その後の分析過程で他分野の専門家や活動家など多くの方と繋がることができた。当事者から 38383 件の

回答の分析は、自由記述を含めて、多くの探究するべき側面が詰まっている。経験だけではなく、圧倒的な数値で示すことで、課題はあるにしても、性暴力の理解は進んだと感じている。

(2)活用・展開：

愛知県内全地域の養護教諭対象の研修や性暴力セミナーなどの依頼を受けているが、アンケート結果の分析で説明することで、効果的であったことのコメントが多い。日本ペンクラブとつながることで、文学が持つ力を再認識した。いろんな形で発信ができることを改めて考えた。性暴力や DV の温床となっている日本の家制度やジェンダーに関する社会規範を可視化することで、性暴力撲滅に一歩近づく可能性や、今後の研究課題として提案できることも多いと考える。

愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業計画（2019年度～）

- 愛知県救命救急センターの看護師を、性暴力対応看護職（SANE）として育成し、地域で急性期対応ができる体制を整備する。
- なごみをハブとした地域連携ネットワークを構築する。連携センターとして活動する。

年度	愛知県救命救急センター精神科・小児科受講対象病院数	SANE養成プログラム受講病院数及び看護師数	対象病院外受講者数	SANE配置数	性暴力被害者来院件数（延べ数）	SANE対応件数	なごみとの連携体制整備
2019年度（対面）	23病院	18病院26名	6名				
2020年（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1	11病院18名 精神科医療施設3名	10名				
2021年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	11病院20名 精神科医療機関1名 小児科医療機関3名	10名	17施設82名 （なごみ以外22名）	8施設585件 （なごみ以外36件）	4施設477件 （なごみ以外19件）	5施設
2022年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	12病院18名 精神科医療機関3名 小児科医療機関2名	23名	17施設100名 （なごみ以外40名）	8施設654件 （なごみ以外73件）	4施設475件 （なごみ以外43件）	5施設
2023年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	17病院28名 精神科医療機関1名 小児科医療機関2名	23名	19施設113名 （なごみ以外59名）	14施設742件 （なごみ以外91件）	9施設484件 （なごみ以外40件）	7施設
2024年度（オンライン・一部対面）	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	16病院29名 精神科医療機関1名 小児科医療機関1名	40名	23施設139名 （なごみ以外85名）	14施設829件 （なごみ以外103件）	10施設476件 （なごみ以外63件）	12施設

（非開示の医療機関はデータに含まれません）

(3)その他：

分析ワーキングチームに、男性被害者研究、LGBTQ 支援団体、子どものレジリエンス教育、人類学、その他大学院生、留学生など多様なメンバーが加わり、さらに分析を深めた。職場のハラスメントを扱った映画「ある職場」のトークを依頼されたことで、その後の職場ハラスメントの研修本の作成と、研修実施へと繋がった。職場をきっかけに学校、その他組織単位での研修やコンサルテーションのアイデアに繋がった。また次世代に活動をつなぐ機会にすることもできる。

４．研究開発の実施体制

４－１．研究開発実施体制

・４－１－1　全体計画

（１）研究グループ

グループリーダー：長江美代子（日本福祉大学、研究フェロー）

役割：NGM4S 救援システムの実践評価修正とエビデンス蓄積の準備、システムの拡充と全国展開に向けての計画を練り遂行する。

概要：アンケート調査で募った愛知県内の協力可能な精神科診療施設約 32 カ所（個人専門家の協力も含む）の協力を得てトラウマ・PTSD 拠点を設置し、被害者への科学的根拠に基づいた PTSD 治療およびケア提供を確保する。その上で、(一社) 日本フォレンジックヒューマンケアセンター（NFHCC）と協働し、虐待専門医師、性暴力被害者支援看護師（SANE)、支援員、PTSD 専門家その他、システムにかかわるスタッフ育成のための教育研修を企画実施する。

（２）ＯＳＣグループ

グループリーダー：片岡笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

役割：性暴力被害者支援の実践、病院拠点型 OSC の運営、地域への拡大に取り組む。

概要：地域の連携病院とともに「あいちハブモデル」を構成し、その連携の中心として、IoT/情報連携支援グループにより開発した OSC 共通項目入力フォームによる全国データ蓄積の実践を推進し、SANE のスキルアップに取り組み、その実践モデルを示す。連携病院スタッフの研修やワンストップ導入時のコンサルテーションとスーパービジョンは NFHCC が提供する。

（３）IoT/情報連携支援グループ

グループリーダー：榎堀優（名古屋大学・大学院情報学研究科・講師）

役割：なごみを中心に構築された地域内ステークホルダーとのネットワークと協働し、連携の基盤となる情報システムなどを提案する。

概要：データベースの共通化やデータ共有のしくみの構築を検討し、全国展開につなげる。研究グループとともに OSC および連携センターの活動データの分析により現状の数値化、各種活動の実施をサポートするシステム（例えば PE 実施を補助するウェアラブルデバイスの活用など）を構築する。

（４）連携グループ

グループリーダー：小笠原和美（警察大学校特別捜査幹部研修所長、慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員）

役割：多職種･多機関の代表が定期的に集まることができている状況を土台に、「NGM4S 救援システム」の効果を高める常時対応可能 MDT 構築に関わる。

概要：実践的な MDT 体制を構築するために、OSC グループによるベースラインアセスメントと標準化と協働して、犯罪被害者サポートセンター系の OSC と病院拠点型 OSC（警察関連と医療関連)、自治体と民間をつなぎ、全国の OSC のレベル向上につなぐプロセスを模索する。また、国内に CAC を設置する田上プロジェクトと協働し、子ども被害対応における MDT の構築に焦点を当てたモデルを示す。

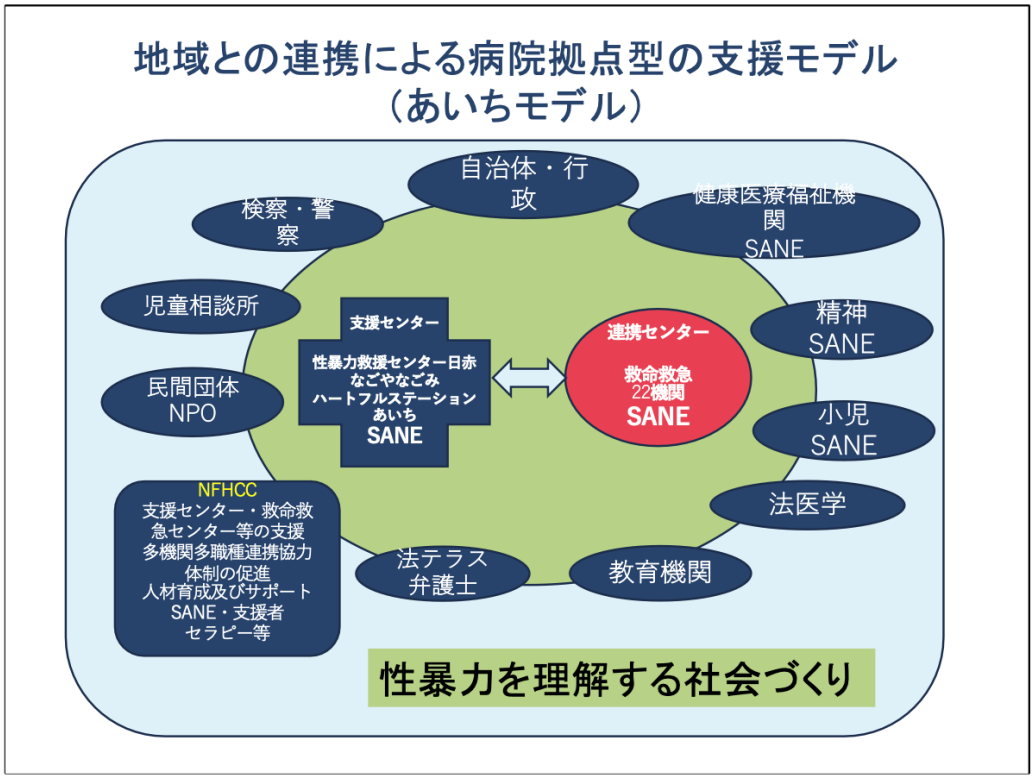
・４－１－２　協働実施者に期待された主な役割と、研究開発の実施

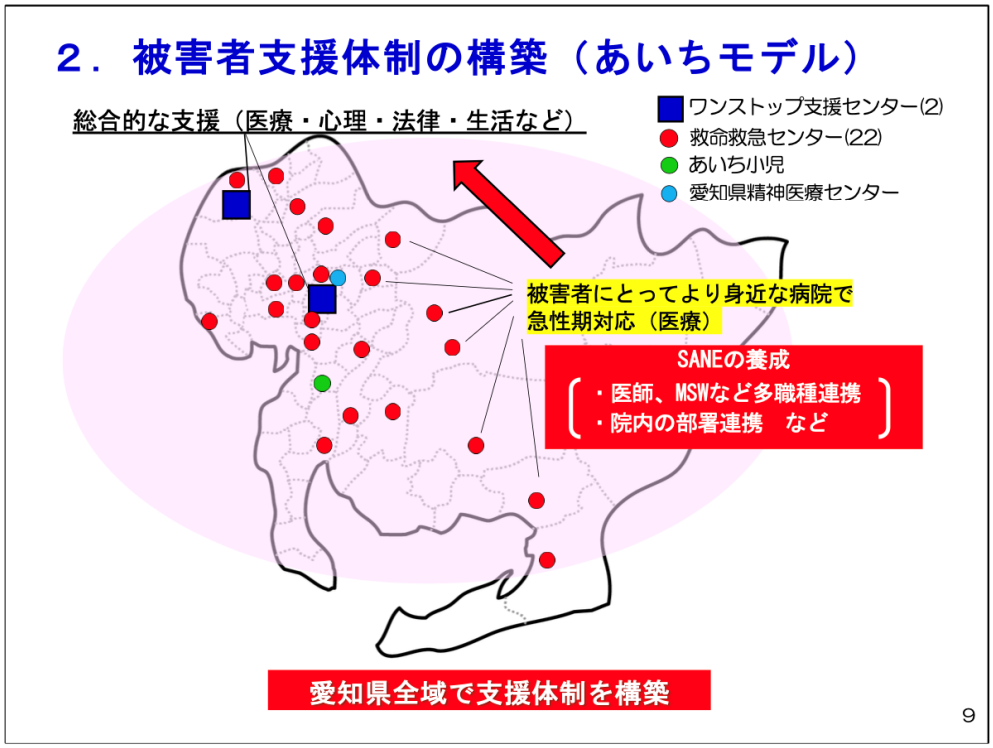
研究代表者は、PJ 全体の運営や研究活動に加えて、主にトラウマ・PTSD 拠点の設置とそこで提供する相談・ケア・治療・紹介などを主な役割とした。協働実施者の主な役割は、OSC に関わる、管理運営、SANE をふくめた関連の人材育成、行政との協働、拠点病院との調整などが期待されていた。実施は期待以上で PJ の展開に大きく貢献した。とくに病院拠点であったところで、初動の環境調整や SANE 配置の采配、愛知県の被害者支援事業との協働は、全国展開に向けての具体的な情報提供となる。

・４－１－３　協働上の課題

今後協働する上では、活動を社会実装すること、法人の自立運営を実現し、次の世代に引き継ぐことがせまられている。

・４－１－４　事業終了時点でのステークホルダーマップ





４－２．研究開発実施者

研究グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
長江　美代子	ナガエ　ミヨコ	日本福祉大学	福祉社会開発研究所	研究フェロー
小西　聖子	コニシ　タカコ	武蔵野大学	人間科学部大学院	教授
Edna Foa	エド ナフォア	University of Pennsylvania	Center for the Treatment and Study of Anxiety	教授
羽田　有紀	ハダ　ユキ	日本福祉大学	福祉社会開発研究所	一般研究員A
中村　寧音	ナカムラ　ネネ	日本福祉大学		研究補助員

OSC グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
片岡　笑美子	カタオカ　エミコ	一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター		会長
山田　浩史	ヤマダ　ヒロシ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	第一泌尿器科／なごみ	部長
山室　理	ヤマムロ　オサム	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	産婦人科	副院長
加藤　紀子	カトウ　ノリコ	日本赤十字社愛知医療セン	産婦人科	部長／センター長

		ター名古屋第二病院		
坂本　理恵	サカモト　リエ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	医療社会事業部	係長

IoT/情報連携支援グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
榎堀　優	エノキボリ　ユウ	名古屋大学	大学院情報学研究科	講師
間瀬　健二	マセ　ケンジ	名古屋大学	数理・データ科学教育研究センター	特任教授
林　直美	ハヤシ　ナオミ	株式会社マイ.ビジネスサービス		副社長
大沢　真知子	オオサワ　マチコ	日本女子大学	日本女子大学 現代女性キャリア研究所	名誉教授 特任研究員
竹山　明子	タケヤマ　アキコ	カンサス大学	Center for East Asian Study	Full Professor
石川　信一	イシカワ　シンイチ	同志社大学	心理学部	教授
宮﨑　浩一	ミヤザキ　ヒロカズ	立命館大学	大学院	正規生

連携グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
小笠原　和美	オガサワラ　カズミ	警察大学校 慶応義塾大学	慶應義塾大学 SFC 研究所 特別捜査幹部研修所	上席所員 所長
長谷　昭次	ハセタニ　アキツグ	愛知県	防災安全局県民安全課	課長

４－３．研究開発の協力者

氏　名	フリガナ	所　属	役職（身分）	協力内容
加納　尚美	カノウ　ナオミ	茨城県立医療大学	教授	SANE の認定制度
加藤　秀章	カトウ　ヒデアキ	名古屋市立大学法医学	准教授	MDT メンバー（法的アセスメント、司法関連
土田　幸子	ツチダ　サチコ	鈴鹿医療科学大学	准教授	セラピストメンバー
外ノ池　隆史	トノイケ　タカシ	愛知学院大学	教授	精神科医として PTSD 治療
古橋　功一	フルハシ コウイチ	藤田医科大学病院	児童精神科医	PTSD 治療、なごみとの連携、MDT メンバー
服部　希恵	ハットリ　キエ	日本福祉大学福祉社会開発研究所	客員研究所員	研修・セラピー実施、研究データ収集と分析
古澤　亜矢子	フルザワ　アヤコ	日本福祉大学看護学部	教授	研修・セラピー実施、研究データ収集と分析
舘　理江	タチ　リエ	日本福祉大学看護学部	助教	研修・セラピー実施、研究データ収集と分析
白井　久美子	シライ　クミコ	日本福祉大学福祉社会開発研究所	客員研究所員	研修・セラピー実施
杉本　敬子	スギモト　ケイコ	医療創生大学　国際看護学部	教授	文献収集、海外情報収集
井上　喜久江	イノウエ　キクエ	井上医院	院長	トラウマ・PTSD 治療連携
齋藤　梓	サイトウ　アズサ	上智大学総合人間科学部心理学科	准教授	ISVA 導入
山本　潤	ヤマモト　ジュン	茨城県立医療大学	助教	ISVA 導入
浦　尚子	ウラ　ヒサコ	性暴力被害者支援センター・ふくおか	センター長	ISVA 導入
河村　宜明	カワムラ ノブアキ	東邦学園 法人事務局/愛知東邦大学 DX 推進室 株式会社イープロ	課長 事業部長	DX サポート、システムコンサルテーション

機関名	部　署	協力内容
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	性暴力救援センター日赤なごやなごみ	ワンストップ支援拠点
日本福祉大学	福祉総合研修センター	SANE 養成
日本福祉大学	日本福祉大学看護実践研究センター	研修実施
愛知県	防災安全局県民安全課	SANE 育成と OSC 拡充
日本フォレンジック看護学会		SANE 学会認定制度、診療報酬の働きかけ
楓の丘こどもと女性のクリニック	児童精神	PTSD 治療 なごみとの連携、MDT メンバー
JA 愛知厚生連　海南病院		SANE 配置 OSC 連携
トヨタ記念病院		SANE 配置 OSC 連携
公立陶生病院		SANE 配置 OSC 連携
名古屋掖済会病院		SANE 配置 OSC 連携

５．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

５－１．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

５－１－１．プロジェクトで主催したイベント（シンポジウム・ワークショップなど）

年月日	名　称	場　所	概要・反響など	参加人数
2021.11.20	シンポジウム：救急&パンデミックにおける性暴力・DV 対応とトラウマインフォームド・ケア	オンライン	米国ネブラスカ大学メディカルセンター（UNMC）救急部門のチームと協働でシンポジウムを実施。 救命救急センター外来での性暴力被害初期対応を具体化した。 クライエントセンタードのトラウマインフォームド・ケアについて	160 名

2022.1.29, 30	翻訳刊行記念シンポジウム：性暴力サバイバーが出産するとき：求められるケアとは	対面及びオンライン 静岡 1 月 29 日 名古屋 1 月 30 日	翻訳プロジェクトメンバーと、各地域のシンポジストで訳本の内容紹介と、性暴力被害、ドゥーラ、助産の実践、SANE の実践についてディスカッションした。	静岡 119 名 名古屋 162 名
2022.5.14	出前型　被虐待児診察技術研修	日本赤十字社愛知医療センター	講師：認定特定非営利活動法人　チャイルドファーストジャパン（CFJ）による性虐待概論、MDT チーム概論、刑法、診察方法概論、診察方法、演習 95％が　満足～とても満足	26 名 （医師 21 名、 看護職 4 名、 MSW1 名）
2022.5.31	１８歳を超えた性的虐待ケースについて	オンライン	講師：「NPO 法人子ども支援センターつなっぐ」代表に依頼 課題への取り組み支援の糸口をつかむため、なごみのスタッフ、弁護士、児童相談所その他支援関係者みんなで学ぶ機会として、オンラインレクチャーを企画した 94％が、満足～とても満足	57 名+スタッフ 3 名
2022.11.8	性暴力被害者への対応: ISVA（Independent Sexual Violence Advisor)の役割	オンライン及び対面 日赤豊田愛知災害管理センター	UK トレーナー （Alison 氏、Ceri 氏）	60 名 （SANE、アドボケーター、ISVA 受講生 50 名、 対面 10 名）
2023.6.8	第 107 次日本法医学会学術全国集会	小田原 三の丸ホール	シンポジウム 1 「わが国における フォレンジック看護の実践」に	

			参加。 講演内容：「法医学的証拠採取の取り組み」	
2023.11.18	第 45 回山形県母性衛生学会学術集会	山形県立 保健医療大学	講演内容：「女性に対する暴力予防の支援―性暴力被害者支援の視点から」	
2024.3.7	日本女性財団 R５中部プラットフォーム	イオンコンパス	講演内容：困窮する女性の背景を知る：女性と子どもの姓を中心に」	約 90 名
2024.5.24	一般社団法人　日本フォレンジックヒューマンケアセンター新体制によるコンタクトセンター「くみき」開設記念シンポジウム	ウインクあいち	Dr. Susan T. Skinner による基調講演『米国オレゴン州での性虐待対応について』、あいち小児保健医療総合センター　加藤美穂子氏池山由紀氏による基調講演を開催した	約 50 名
2024.6.29	「性とこころ」関連問題学会第 13 回学術研究大会	メトロポリタンホテル	テーマ「性被害からの回復―どのように立ち上がるかを語ろうー」 講演内容「病院ワンストップセンターの役割：急性期介入の重要性」	
2024.8.25	日本フォレンジック看護学会第 11 回学術集会	岩手県立大学	シンポジウム「当事者に寄り添うフォレンジック看護を目指して」	
2024.10.26 -10.27	第 31 回日本精神科看護専門学校学術集会　in　山口	海峡メッセ	啓発交流セミナー「性暴力被害者支援の現状と私たち精神科看護師ができること」	

2024.11.20-21	第 24 回全国児童家庭支援センター研究協議会三重大会	アスト津	「様々な困難を抱える家庭で暮らすこどもへの支援と課題」講演＆グループワーク研修	
2024.11.27	性暴力被害者・児支援のための多機関・多職種連携に関するシンポジウム	ウインクあいち	① 愛知県防災安全局県民安全課安全なまちづくりグループ 主査 平田恵梨奈氏 「SANE 活用を通した病院拠点型支援センターの県域展開について」 ② 岐阜県西濃子ども相談センター 菊井愛氏 「児童虐待対応における児童相談所の役割」 ③ 福岡県生活安全課参事補佐兼性暴力・犯罪被害者対策係長 奥田麻衣子氏 「福岡県性暴力根絶条例に基づく取組について」 3 地域でのとりくみについてそれぞれの発表を開催した。	対面 29 名 オンライン 92 名 自治体 一般 医療福祉その他多様な専門職
2025.2.1	NGM4S for SURVIVORS (NGM4S) プロジェクト　暴力を許さない社会に向けてのシンポジウム	中日ホール	①基調講演「性暴力は見えるようになったか？ ②「2019 年から今日までのプロジェクトの歩みと成果、そしてこれ	対面 20 名 オンライン 92 名 一般 医療福祉教

			から」 ③「病院拠点型ワンストップ支援センター設置から他地域展開へのとりくみ―性暴力対応看護師（SANE）の養成から活用―」 ④「NHK の調査から分かるもの～背後にある社会規範を明らかにする～」	育その他多様な専門職
2025.3.9	日本女性財団愛知プラットフォーム 性暴力被害者・DV 被害者―多職種連携でおこなう包括的支援―」	中日ホール	シンポジウム「性暴力・DV 被害者の妊娠・出産・子育てって・・・。」	50 名名医療・福祉関係　企業支援団体行政関係者教育関係者メディア他

５－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

５－２－１．書籍、フリーペーパー、DVD など論文以外に発行したもの

・「はなれるいのち」監修：長江美代子・江口美智、作・絵：あすみさ、ともあ出版、2022 年

・「宿るいのち・逝くいのち」監修：江口美智・長江美代子　作・絵：あすみさ、ともあ出版、2022 年

・なぜ私は凍りついたのか（花丘ちぐさ 編集）・11 章性暴力被害裁判とポリヴェーガル理論(pp. 217-233)、長江美代子. 春秋社. (2021

・性暴力被害者の身体的ケア、長江美代子(pp. 86-88). 性暴力被害の心理支援：斎藤梓 ・岡本かおり (編集)、金剛出版、2022.

・性暴力サバイバーが出産するとき：子供の頃に性的虐待を受けた女性が出産するときに起こることの理解と癒し、Klaus, P., & Simkin, P. (白井千晶監訳 ・ 性暴力サバイバーの妊娠出産ケアプロジェクトチーム, 訳)、株式会社ともあ、2022.

・災害・パンデミックにおける性暴力被害への対応：性暴力対応看護師 (SANE)の立場から、長江美代子. Nursing Todayブックレット編集部、災害と性暴力―性被害をなかったことにしない、させないために: 日本看護協会出版会、2022.

・切り離せない DV・虐待・性暴力の支援をつなぎ次世代を守る、長江美代子(pp.90-111).

子ども学 第 11 号、2023.

・「助けて」と言える社会へ 性暴力と男女不平等社会、大沢真知子、日本出版社、2023.

・『わが国におけるポリヴェーガル理論の臨床応用』第６章性犯罪及び性被害者支援: フォレンジック看護におけるポリヴェーガル理論 の臨床応用、長江美代子、岩崎学術出版社、2023.

・「特集　性加害ニュースどう伝える！？」NHK ジャーナル、2023.11.9.

・「性加害」ニュースが“しんどい”あなたへ―性暴力を考える―、NHK みんなでプラス、2023.

・ネブラスカドキュメント撮影、ネブラスカ大学救急医療チーム、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院８名、長江、片岡インタビュー、2023.8.10.

・名古屋市教育委員会 生涯学習課主催の講座「自分らしく生きるために」(開催日：2025 年 1 月 21 日　会場：イーブルなごや）中日新聞（2025 年 1 月 22 日付け）にて掲載。

５－２－２．ウェブメディアの開設・運営

なし

５－２－３．学会以外のシンポジウムなどでの招へい講演　など

日程	会場	方法	内容	主催	対象者
2022.3.17	愛知県立総合看護専門学校	対面	令和３年度性暴力被害防止セミナー：性犯罪・性暴力被害者の心のケア（精神看護）について（長江美代子） 性犯罪・性暴力被害者の現状及び支援について（片岡笑美子）	愛知県防災安全局県民安全課安全なまちづくりグループ	看護学生 200 名
2022.4.27	青森県警察人身安全対策課	対面	性虐待事案対応を中心に多機関連携の重要性や先進県の実践例について講演 小笠原	青森県警察本部	性虐待事案対応に従事する捜査幹部・捜査員数十名
2022.6.28 2022.11.30	日本環境大学	対面	性暴力被害者への急性期対応の重要性－リプロダクティブヘルス・ライツ	日本環境大学看護学部母性看護	日本環境大学看護学部　看護学生

			の実践ー。 片岡		
2022.7.8	日本福祉大学東海キャンパス	対面	精神看護方法論 性暴力被害者への急性期対応 早期介入でからだとこころを守ろう 片岡	日本福祉大学	看護学生
2022.7.25	富山県警察本部	対面	性虐待事案対応を中心に多機関連携の重要性や先進県の実践例について講演 小笠原	富山県警察少年女性安全課	性虐待事案対応に従事する捜査幹部・捜査員数十名
2022.8.17	緑生涯学習センター	対面	性犯罪被害者が受ける二次的被害を生む偏見や差別があることに気付き、性犯罪被害者が地域で安心して暮らすためにどのようなことが必要かを考えるきっかけとする。長江	名古屋市教育委員会生涯学習課	一般 30 名
2022.9.13 2022.12.19	日本赤十字秋田看護大学	対面	フォレンジック看護特論 性暴力被害者への急性期対応の重要性ーリプロダクティブヘルス・ライツの実践ー 片岡	日本赤十字秋田看護大学大学院	看護大学院生
2022.9.21	日本福祉大学　美浜キャンパス	対面	保健医療福祉特講 性暴力被害者支援の現状と課題ー多機関多職種連携の重要性 片岡	日本福祉大学　社会福祉学部	社会福祉学部学生
2022.10.7	県立津島東高等学	対面	子どもの性暴力被害の現状と支援	愛知県	尾西地区 13 校の教員

	校		ー教育現場でできることー 片岡		
2022.10.15	藤田医科大学保健衛生学部看護学科１年生	対面	性暴力被害の実態や、被害者に対する支援について知り、対応ついて学ぶ。 片岡・長江	愛知県防災安全局県民安全課安全なまちづくりグループ	学生及び教員約１６０名
2022.11.５	仙台市男女共同参画推進センター	対面	病院拠点型ワンストップ支援センターの支援の実際 片岡	公益財団法人　せんだい男女共同参画財団	被害者と接する機会のある支援者
2022.11.20	オンライン	オンライン	ＳＣｗｏｒｋｓ GIFU 秋季特別研修会 片岡	ＳＣｗｏｒｋｓGIFU	全国の SC、教職員 36 名
2022.12.18	オンライン	オンライン	講演 性暴力を考える-NHKアンケート調査から見えたこと 大沢	日本ペンクラブ	100 名
2023.1.26	オンライン	オンライン	性暴力被害者への急性期対応の重要性 ーリプロダクティブヘルス/ライツの実践ー 片岡	山形県立医療保健大学（山形県委託）	母子保健コーディネーター、母子保健担当職員 産婦人科医医療機関看護職員　60 名
2023.2.4	オンライン	オンライン	性虐待事案対応を中心に多機関連携の重要性や先進県の実践例について講演 小笠原	公益社団法人被害者支援センターすてっぷぐんま	関東近郊において性暴力被害者支援センターを運営する団体の相談員・支援員その他関係者数十名
2023.2.6	名古屋市女性会館	対面	性暴力とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ	名古屋市教育委員会	名古屋市一般市民　30 名

			長江		
2023.3.4	LOFT９（渋谷）	対面	基調講演 世代を超える 性暴力の悪循環を 断ち切るために 長江	日本ペンクラブ	対面 30 名 &オンライン
2023.3.24	愛知県立総合看護専門学校	対面	リプロダクティブヘルス/ライツの実践	愛知県	看護学生
2023.6.15	医療法人社団互啓会ぴあクリニック	対面	講演内容：「主に訪問場面において知っておきたいトラウマの理解とケア」	医療法人社団互啓会ぴあクリニック	ぴあクリニック職員 10 名
2023.6.27	アイプラザ半田	対面	講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校ができることー」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」	愛知県学校保健会	愛知県立高校所属養護教諭 30 名
2023.7.6	日本赤十字秋田看護大学講義室	対面	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師(SANE)の役割」	日本赤十字秋田看護大学大学院	大学院看護学研究科看護学専攻修士課程学生 9 名
2023.7.12	愛知県立大学守山キャンパス	対面	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師(SANE)の役割」	愛知県立大学母性看護学	100 名
2023.7.19	愛知県立大学長久手キャンパス	対面	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要	県民安全課安全なまちづくりグループ	

			性と性暴力対応看護師(SANE)の役割」		
2023.7.24	長野県看護大学	対面	講演内容：「フォレンジック看護学とは」	長野県看護大学	100 名
2023.9.6	名古屋医専看護学科	対面	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクティブヘルス／ライツの実践―」	名古屋医専看護学科	38 名
2023.9.12	名古屋医専看護学科	対面	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクティブヘルス／ライツの実践―」	名古屋医専看護学科	44 名
2023.10.7	オンラインライブ配信	オンライン	講演内容：「性暴力被害対応におけるフォレンジック看護の役割:周トラウマ期反応とポリヴェーガル理論の臨床応用」	日本福祉大学地域ブロックセンター	全国の日本福祉大学同窓生
2023.10.19	三重県合同ビル	対面	講演内容：「多機関多職種連携による性暴力被害者支援体制の構築」	三重県くらし交通安全課	SANE、警察他 15 名
2023.11.14	愛知県教育会館	対面	講演内容：「性暴力被害の実態と支援活動」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」	愛知県学校保健会	県立学校等保健主事 220 名
2023.11.22	学校法人セムイ学園東海医療科学専門学校	対面	講演内容：「女性と家族を支える　性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクトテ	学校法人セムイ学園東海医療科学専門学校	約 30 名

			ィブヘルス／ライツの実践―」		
2023.11.22	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス	対面	講演内容：「性暴力被害の実態と支援活動」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」	県民安全課安全なまちづくりグループ	165 名
2023.11.24	名古屋文理大学フォーラム小ホール	対面	講演内容：「性暴力被害の実態と支援活動」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」	愛知県学校保健会	愛知県立学校尾張支部の養護教諭５０名
2023.12.1	ウィルあいち	対面	講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校でできることー」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」	愛知県学校保健会	県立学校等保健主事
2023.12.3	高松商工会議所	対面	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―病院拠点型ワンストップ支援センターの活動を通して」	香川県政策部男女参画県民活動課	50 名
2023.12.8	公立陶生病院	対面	講演内容：「性暴力被害の現状と多機関多職種連携による支援体制をめざしてー早期介入でからだとこころを守ろうー」	公立陶生病院人権擁護委員会	医師、看護師等の院内・院外の医療従事者
2023.12.15	名古屋医専看護学	対面	講演内容：「性暴力被害者への急性期	名古屋医専看護学科	38 名

	科		対応の重要性―リプロダクティブヘルス／ライツの実践―」		
2023.12.20	人間環境大学	対面	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応」について	人間環境大学助産学領域	7 名
2024.1.12	日本赤十字社豊田看護大学	対面	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師(SANE)の役割」	日本赤十字社豊田看護大学	120 名
2024.1.16	ライフポートとよはし教育会館	対面	講演内容：講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校でできることー」	東三河高等学校生徒指導研究会	約 50 名
2024.1.18	上智大学	対面	Sexual Violence and Gender Inequality in Japan	Sophia University Institute of Comparative Culture	学生・研究者・ジャーナリスト
2024.2.5	愛知県立大学守山キャンパス	対面	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師(SANE)の役割―」	愛知県立大学	約 100 名
2024.2.8	愛知県総合看護専門学校	対面	講演内容：「性暴力被害者支援について」	愛知県総合看護専門学校	45 名

2024.2.15	テンプル大学日本校	対面	Sexual Violence and Gender Inequality	テンプル大学日本校	学生・研究者・ジャーナリストなど
2024.2.17	愛知県女性総合センター	対面	講演内容：「性暴力の影に隠された声～調査結果から見えたこと」	公益財団法人あいち男女共同参画財団	
2024.2.18	米子市ふれあいの里４階中会議室	対面	生きづらさの根底にあるもの～助けてと言える社会をめざして	米子市男女共同参画課	米子市市民
2024.2.22	日本女子大学現代女性キャリア研究所	対面	性暴力と男女不平等社会	日本女子大学現代女性キャリア研究所	学生・大学院生・教員・研究者
2024.2.24	ホテル函館ロイヤル・シーサイド	対面	講演内容「性暴力被害によるトラウマ・PTSD の理解」	函館ゾンタクラブ	80 名
2024.2.25	専修大学神田キャンパス７号間７３１教室	対面	男らしさの彼岸ー男らしさを問い直す	日本ペンクラブ女性作家委員会	一般市民
2024.2.27	豊橋市民病院	対面	講演内容：「多機関多職種連携による性暴力被害者体制―性暴力被害者への急性期対応の重要性―」	豊橋市民病院患者総合支援センター	約 50 名
2024.3.5	豊橋教育会館	対面	講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校でできることー」	愛知県学校保健会	養護教諭 45 名

			「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」		
2024.3.8	エル・大阪南館７階	対面	なぜ女性は活躍できないのか	連合大阪	連合大阪女性委員会委員
2024.3.9	ドーンセンター（大阪）	対面	「助けて」と言える社会へ―性暴力と男女不平等社会	国際女性年大阪連絡会	国際女性年大阪連絡会加盟１５団体のメンバー
2024.6.27	愛知県衣台高等学校	対面	性被害防止教室		愛知県衣台高等学校生徒
2024.7.2	愛知県学校保健会県立学校部西三河支部第１回養護教諭研究会	対面		安城市昭林公民館ホール	西三河支部養護教諭
2024.7.12	日本福祉大学東海キャンパス	対面	日本福祉大学精神看護　講義	日本福祉大学	
2024.7.17	愛知県立大学長久手キャンパス	対面	性暴力被害防止セミナー		87 名
2024.7.20、21	ブリリアタワー名古屋グランスイート　301	対面	妊娠出産サポートトラウマ・インフォームド・ケア研修会	ドゥーラシップジャパン(ドコモ市民活動団体助成事業)	助産師、ドゥーラなど（13 名）

2024.7.28	長野県立看護大学母性看護概論Ⅱ	対面	長野県立看護大学講義	長野県立看護大学	長野県立看護大学学部２年生
2024.8.7	名古屋市立大学大学院看護学研究科FD研修	対面	講義「トラウマ・PTSD を抱えた学生への学修支援」	名古屋市立大学	名古屋市立大学看護学部
2024.8.15	第 19 回家族相談員スキルアップ研修会	対面	「家族相談よもやま話」	名古屋市精神保健福祉センター	
2024.9.14	日本赤十字秋田看護大学	オンライン	「フォレンジック看護特論」	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字秋田看護大学大学院　看護学研究科看護学専攻修士課程
2024.9.12-12 月	日本福祉大学	オンライン	国際フォレンジック看護学	日本福祉大学看護学部研究科	左学部在学の学生
2024.9.23-2025.2.28		オンライン	女性のメンタルヘルスとジェンダー	高崎健康福祉大学	高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科
2024.10.2		オンライン	性暴力被害の相談対応	宙いろ＠Ｉデンティティ	若年女性相談員、LGBT 相談員、SNS 相談員
2024.10.5		オンライン	SANE 養成プログラム2024「病院拠点型ワンストップ支援		SANE 養成プログラム受講者

			センターの現状と課題」		
2024.10.23	三重県松阪庁舎	対面	令和 6 年度松阪地域・南勢志摩地域配偶者等暴力防止合同研修会「性暴力被害の実態と支援活動ー急性期対応の重要性」	三重県多気度会福祉事務所長	松阪地域、南勢志摩地域管内各市町、警察、司法機関、医師会、教員、児童相談所、県家庭福祉課など約 30 名
2024.10.25		対面	愛知県女性相談基礎研修プログラム「第 4 回性被害による相談者の心理と支援」		
2024.10.28	三重県教育文化会館	対面	民法改正 2024 を知る	みえヘルプライン	DV 被害当事者・女性相談支援員・支援者など（40 名）
2024.11.3	オンライン	オンライン	DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座 2024「病院拠点型ワンストップ支援センターにおける SANE の実践」	特定非営利活動法人女性の安全と健康のための支援教育センター	SANE コースプログラム受講者
2024.11.12		オンライン	女性のメンタルヘルスとジェンダー	高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科保健医療学部（看護学科）	左学部在学の学生

2024.11.23		オンライン	災害時の性暴力（1）：ジェンダーと防災「災害・パンデミックにおける性暴力被害と対応：性暴力対応看護師（SANE）の立場から」	静岡大学ジェンダー研究所	一般
2024.11.27	ウインクあいち	対面、オンライン	性暴力被害者（児）支援のための多機関・多職種連携に関するシンポジウム	NFHCC	一般
2024.12.18			「女性と家族を支える」講義	東海医療科学専門学校	東海医療科学専門学校学生
2024.12.19	南区役所	対面	親なきあと家族講演会・相談会『家族からみる親なきあとの取組みについて』	瑞穂、南保健センター	瑞穂・南区に在住の精神疾患を抱える本人とその家族（45名）
2025.1.10	日本赤十字豊田看護大学	対面	「母性看護学概論」性暴力を受けた女性への看護について	日本赤十字豊田看護大学	看護学部２年生
2025.1.12	名古屋国際会議場	対面	令和 6 年度医療保健領域部会企画一日研修会　性暴力被害者支援への心理的社会的支援	愛知県臨床心理士会医療保健部会	臨床心理士、公認心理士、有資格者
2025.1.19	オンライン	オンライン	SANE 養成プログラム2024「病院拠点型における SANE 実践」		SANE 養成プログラム受講者
2025.1.21	イーブルなごや	対面	第１回「自分らしく生きるために」性暴力被害の現実と被害者の思いを知る	名古屋市教育委員会生涯学習課	一般

			～支援者からのメッセージ～		
2025.1.23	愛知県自治センター	対面	愛知県障害福祉課研修	愛知県福祉局福祉部障害福祉課	相談窓口職員、障害福祉サービス事業所の職員等
2025.1.26			フェムシップドクターズ養成講座「性暴力対応看護師 SANE の輪を地域に広げていくには」	日本女性財団	
2025.2.3	愛知県立大学	対面	愛知県立大学看護学部「母性看護方法論」講義	愛知県立大学	看護学部　学生
2025.2.25	愛知県東大手庁舎地下１階大会議	対面	性暴力被害者支援の現状から女性の人権を考える」	愛知県県民文化局人権推進課	一般

５－３．論文発表

５－３－１．査読付き（2 件）

・Nagae, M., Kataoka, E., Tanaka, A., & Hattori, K. (2024). Establishing an Interprofessional Collaboration for PTSD Prevention, Treatment, and Recovery among Victims of Sexual Violence. In H. Matsushita & C. Orchard (Eds.), *Innovative Collaboration in Healthcare* (pp. 165-192). Singapore: Springer Nature.

・長江美代子、切り離せない DV・虐待・性暴力の支援をつなぎ次世代を守る、子ども学、11、90-111、2023.

５－３－２．査読なし（4 件）

・長江美代子、性暴力被害者の看護支援：ワンストップ支援ワンストップ支援センターの活動とトラウマケアの重要性. 精神科看護, *48*(13), 50-61、 2021.

・長江美代子. (2022). 性暴力被害者の身体的ケア. In 斎藤梓 & 岡本かおり (Eds.), 性暴力被害の心理支援 (pp. 86-88). 東京: 金剛出版.

・長江美代子、フォレンジック看護におけるポリヴェーガル理論の臨床応用. In 花丘ちぐさ (Ed.)、わが国におけるポリヴェーガル理論の臨床応用:トラウマ臨床をはじめとした

実践報告集(pp. 190-208)、岩崎学術出版、2023.

・大沢真知子、「助けて」と言える社会へ 性暴力と男女不平等社会、日本出版社、2023.

５－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

５－４－１．招待講演（国内会議５件、国際会議０件）

- 日本フォレンジック看護学会　第９回学術集会、シンポジウムテーマ：『記録と証言』長江美代子・谷内裕花：教育ガイドラインに示されるSANEの記録について、2022年9月4日（日）東京有明医療大学
- 日本フォレンジック看護学会　第９回学術集会、ワークショップ「地域で病院拠点型ワントップ支援センターを広げよう！」片岡笑美子：病院拠点型ワンストップ支援センター開設へのステップ―性暴力救援センター日赤なごやなごみを開設して―2022年９月３日（土）東京有明医療大学
- 第25回日本腎不全看護学会学術集会支え合うケア～シームレスな連携～ 教育講演長江美代子一歩ふみこむサイコネフロロジーケア（暴力、PTSD）　2022年10月15日（土）名古屋国際会議場「病院ワンストップセンターの役割：急性期介入の重要性」片岡笑美子
- 日本「性とこころ」関連問題学会第13回学術研究大会2024年6月29日：テーマ「 性被害からの回復　ーどのように立ち上がるかを語ろう ー 」、シンポジウムにシンポジストとして参加「病院ワンストップセンターの役割：急性期介入の重要性」片岡笑美子
- 日本フォレンジック看護学会第11回学術集会2024年8月25日：シンポジストとして参加『当事者に寄り添うフォレンジック看護を目指して』長江美代子

５－４－２．口頭発表（国内会議１件、国際会議０件）

- 第 31 回 日本精神科看護専門学術集会 in 山口 2024 年 10 月 26 日 27 日：啓発交流セミナー「性暴力被害者支援の現状と私たち精神科看護師ができること」に参加「災害・パンデミックにおける性暴力被害と対応：性暴力対応看護師（SANE）の立場から」、長江美代子。

５－４－３．ポスター発表（国内会議０件、国際会議０件）

５－５．新聞報道・投稿、受賞など

５－５－１．新聞報道・投稿　12 件

・信濃毎日新聞 2022 年（令和 4 年）3 月 12 日（土曜日）
・中日新聞　24　2022 年（令和 4 年）3 月 25 日（金曜日）
・i 女のしんぶん　2022 年（令和 4 年）11 月 10 日（木曜日）
・毎日新聞　2022 年（令和 4 年）12 月３日（土曜日）
・毎日新聞　2023 年（令和 5 年）1 月 12 日（木曜日）
・中日新聞2023年3月10日付記事取材

・北海道新聞2024年2月25日付記事取材
・産経新聞2024年3月5日付記事　取材、
・毎日新聞2024年4月3日付記事シンポジウム
・The Japan Times 2024.4.10 The INDEPENDENT VOICE IN ASIA COMMENTARY
・産経新聞 2024 年 6 月 9 日付記事取材
・朝日新聞 2024 年 8 月 3 日付記事

５－５－２．受賞

・第 63 回社会貢献者表彰：
一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター（NFHCC）

５－５－３．その他

TV 報道等 10 件
・広島 NHK　2021.11.16（火）200:00-20:30
・NHK 総合　2022.1.19（水）7:00-7:45　おはよう日本
・NHK　取材　2022.5.15　　“性暴力”実態調査アンケート　分析会議
・NHK スペシャル（放映）　2022.6.19
・NHK プラス　性暴力を考える vol.172
https://www.nhk.or.jp/minplus/0026/topic059.html
＊　NHK アンケート調査の分析は以下で順次報告（性暴力を考える）
https://www.nhk.or.jp/minplus/0026/
・AERA2023 年 10 月 30 日 No.5 p.15 付記事　取材
・ラジオ「おもいやり共和のキラキラナイト」5 月 13 日 19：00 放送に出演
・NHK 総合テレビ「おはよう日本」の中で長江氏コメントが紹介（2024 年 12 月 8 日放送）。
・テレビ大阪 2025 年 2 月 19 日取材対応「やさしいニュース」にて放送
・HanakoWEB 2025 年 3 月 11 日付記事 ”もしもの時に備えよう。防災図鑑 AtoZ
女性が知っておきたい、災害時の性暴力リスクと身の守り方” にて取材

５－６．特許出願　なし

５－６－１．国内出願（0 件）

５－６－２．海外出願（0 件）

６．その他

なし